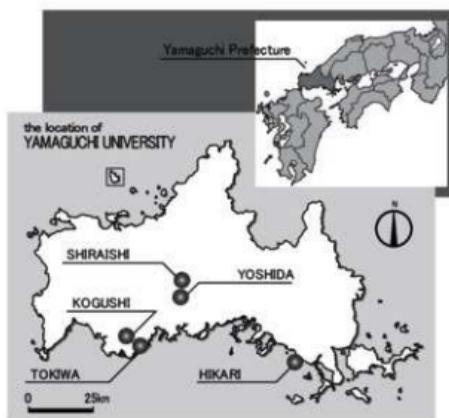


山口大学構内遺跡調査研究年報XXI

2016

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学構内遺跡調査研究年報XXI



2016

山口大学埋蔵文化財資料館

序 文

この年報には、山口大学埋蔵文化財資料館が実施した平成13年度の発掘調査成果を収録しています。当館では、平成15年度以降の発掘調査成果については『山口大学埋蔵文化財資料館年報』として刊行していますが、現在、未報告となっている平成7・10～12・14年度分の発掘調査報告については、今後引き続き整理作業を進め、『山口大学構内遺跡調査研究年報』として刊行する予定です。

本書の刊行にあたって、平成13年度当時の埋蔵文化財資料館運営委員会、施設部をはじめとする関連部局、関係機関・関係各位のご高配に深く御礼申し上げるとともに、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山口大学埋蔵文化財資料館
館長 山内直樹

例　　言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館が、埋蔵文化財資料館運営委員会の指示を受けて、平成 13 年度に山口大学構内で実施した調査の報告書である。
2. 現地における調査・研究は、人文学部考古学研究室 田上浩司（3回生）の協力を得て、資料館員 村田裕一（～平成 15 年 3 月 31 日）・田畠直彦が担当した。
また、出土遺物の整理と報告書の作成は平成 13 年度及び平成 27 年度に行い、同館員 神田真理子（平成 13 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・乃美友香（平成 19 年 4 月 1 日～）・川島尚宗（平成 25 年 11 月 1 日～）が携わった。整理と報告書作成の統括は川島の補佐を得て、田畠が行った。
3. 本調査・研究における事務一般は、平成 13 年度は事務局研究協力第三係が統括し、実施面においては、各関係部局の事務部があたった。
4. 現地における遺構の実測などは、村田・田畠・田上が行った。
5. 遺物実測・製図は、田畠・川島が行った。
6. 本文の執筆分担は目次に記した。
7. 現地の写真撮影は、村田・田畠が行った。遺物写真は P L . 4 を田畠、P L . 10 ～ 13 を川島が撮影した。
8. 近世陶磁器については、石崎泰之氏（山口県立萩美術館・浦上記念館）・徳留大輔氏（山口県立萩美術館・浦上記念館 当時 現出光美術館）に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。
9. 英文の校正については、西九州大学リハビリテーション学部マーク J. ハドソン教授にご協力いただいた。
10. 本書の編集は館員の補佐を得て田畠・川島が行った。
11. 調査担当は次のとおりである。

平成 13 年度

調査主体	埋蔵文化財資料館	館長	加納 隆	[～平成 13 年 7 月 15 日]
			西山 勝一	[平成 13 年 7 月 16 日～]
		館員	村田 裕一	
			同 田畠 直彦	
			同 中村 仁美	

		同	神田真理子
事務局	事務局長	鎌田 賢	
本部総務部	部 長	野中 修	
研究協力課	課 長	山田三千夫	
研究協力第三係	係 長	宍戸 好隆	
平成 27 年度			
調査主体	埋蔵文化財資料館	館 長	山内 直樹
		副館長	藤間 充
		館 員	田畠 直彦
		同	横山 成己
		同	川島 尚宗
		同	山田 圭子
		同	乃美 友香
事務局	情報環境部	部 長	小林 洋二
	学術情報課	課 長	叶井貫一郎
	総務係	係 長	水津 峰夫
			島津 有希
			糸瀬 朋美

12. 調査研究にあたって下記の方々の多大なご協力と援助をうけた。

平成 13 年度

事務局総務部	人事課長 鈴木成巳、同課長補佐 福富 隆、同専門員 山根賀浩 任用係長 井下健二、同係 三浦勝弘、穂枝 澄、伊藤美智子
経理部	部長 北野英憲、主計課長 渡邊悟司、同課長補佐 牧原和仁、経理 課長 芝 稔、同課長補佐 川口朋也、総務係長 久保賢治、予算 係長 秦 保博、監査係長 三村文雄、管財係長 岡崎幸治、管理係 長 重本隆之、同係 末武光裕
施設部	部長 太田壽彦、企画課長 矢野 武治、同専門員 藏田兼義、建築 課長 斎田安之、同課長補佐 荒木賢六、設備課長 長門輝久、総務 係長 高崎明祈、企画係長 梅本健志、建築第一係長 中谷幸一、同 係 小野又健治、建築第二係長 石井一生、同係 澤谷弘美、電気係

長 松田清司、同係 弘中智則、前田康孝、機械係長 岡田吉彦、同
係 烏越 薫、藤林聖司、中村兵衛

学務部 部長 道菅 浩、学生生活課長 川添忠久、同専門員 楠元敏胤、總
務係長 宮本 秀

経済学部 事務長 岩佐豈典、会計係長 中光博輝、

理学部 事務長 柳 洋二、事務長補佐 作良初義、高林昭夫、会計係長 山
崎清春、同係 池田浩弥子

医学部 部長 松本 晃、次長 中村 徹、総務課長 中島國昭、同課長補佐
森田義富、管理課長 三宅三郎、同課長補佐 中川憲治、総務係長
原田 豊、経理係長 山本隆嗣、施設管理係長 松永次郎、同係 林
直人、建築係長 川西智信、設備係長 原田敦男

工学部 事務長 荒石光明、事務長補佐 常宗克行、管理係長 須川 哲
吉田構内の発掘調査作業員
岡野美智恵、金子芳子、杉山久枝、原千寿恵、金子万代

凡 例

- 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA-24区南西隅を起点（構内座標x=0, y=0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第III系における座標値（X, Y）と構内座標値（x, y）とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

- 各遺構は下記の記号で表記することがある。

土坑……SK, 溝……SD, 柱穴……Pit, 落ち込み……SX

- 本書に使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

- 標高数値は海拔標高を示す。

- 本文中の遺物番号は、挿図・図版・出土遺物観察表の番号と一致させた。

- 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（1976）に準拠した。

- 土器・陶磁器の実測図は、下記のように器種分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶磁器

断面白抜き……繩文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器

本 文 目 次

第1章 平成13年度山口大学構内遺跡調査の概要…(田畠)	1
第2章 平成13年度山口大学構内遺跡の試掘調査	5
第1節 吉田構内の試掘調査	
1 経済学部校舎改修（プレハブ校舎新設）に伴う試掘調査 …(田畠)	5
第2節 小串構内の試掘調査	
1 医学部附属病院立体駐車場新設に伴う試掘調査 …(川島)	9
第3節 常盤構内の試掘調査	
1 常盤インキュベーションセンター新設に伴う試掘調査 …(田畠)	19
第3章 平成13年度山口大学構内遺跡（吉田構内）の立会調査 …	
(田畠)	21
1 九田川河川局部改良（平成12年度工事追加分）工事に伴う立会調査	21
2 総合研究棟新設（屋外配管布設）工事に伴う立会調査	21
3 理学部改修1期（屋外配管布設）工事に伴う立会調査	22
4 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査	22
5 基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査	23
6 理学部改修2期（ポンプ室配管布設）工事に伴う立会調査	25
7 理学部改修2期 (自転車置場・渡り廊下屋根新設)工事に伴う立会調査	25
8 第1学生食堂トイレ改修工事に伴う立会調査	26
9 経済学部校舎改修（プレハブ校舎配管布設）工事に伴う立会調査	26
付 篇	
吉田遺跡第I地区A区の未報告図面について …(田畠)	27

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則	33
山口大学埋蔵文化財資料館運営員会規則	34
山口大学構内の主な調査	36
Summary	51

図版目次

<吉田構内経済学部校舎改修（プレハブ校舎新営）に伴う試掘調査>

- PL. 1 吉田構内全景（南から）
PL. 2 (1) 調査前全景（北西から）
 (2) 調査区全景（北から）
PL. 3 (1) 調査区西壁土層断面（南東から）
 (2) 2区観察トレンチ土層断面（南東から）
 (3) 3区西壁土層断面（東から）
 (4) 5区床面縄文土器出土状況（東から）
PL. 4 出土遺物

<医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査>

- PL. 5 小串構内全景（南から）
PL. 6 (1) 調査前近景（北東から）
 (2) 調査前近景（北から）
PL. 7 (1) Aトレンチ作業風景（北から）
 (2) Aトレンチ作業風景（北から）
 (3) Aトレンチ東壁南端（西から）
 (4) Aトレンチ全景（南西から）
PL. 8 (1) Bトレンチ北壁（南東から）
 (2) Bトレンチ東壁（北西から）

- (3) B トレンチ南壁（北西から）
 - (4) B トレンチ全景（北東から）
- PL. 9 (1) C トレンチ北壁（南から）
(2) C トレンチ東壁（南西から）
(3) C トレンチ全景（南西から）
(4) C トレンチ全景（北から）

PL. 10 A トレンチ出土遺物①

PL. 11 A トレンチ出土遺物②

PL. 12 A トレンチ出土遺物③

PL. 13 A～C トレンチ出土遺物

＜常盤インキュベーションセンター新宮に伴う試掘調査＞

PL. 14 常盤構内全景（西から）

- PL. 15 (1) A トレンチ北東部（南東から）
(2) A トレンチ水田耕土上面検出状況（東から）
(3) B トレンチ全景（東西から）
(4) B トレンチ東壁土層断面（西から）

＜付篇 吉田遺跡第Ⅰ地区A区の未報告図面について＞

- PL. 16 (1) 第Ⅰ地区A区全景（南西から）
(2) 第Ⅰ地区A区調査風景（北西から）
(3) 第Ⅰ地区A区「不整形のビット」検出状況（北から）
(4) 第Ⅰ地区A区「不整形のビット」土器出土状況（西から）

挿 図 目 次

＜平成13年度山口大学構内遺跡調査の概要＞

Fig. 1 山口大学吉田・白石構内位置図	2
Fig. 2 山口大学小串・常盤構内位置図	3

Fig. 3 山口大学光構内位置図	4
<吉田構内経済学部校舎改修（プレハブ校舎新営）に伴う試掘調査>	
Fig. 4 調査区位置図	5
Fig. 5 調査区設定位置図	6
Fig. 6 調査区平面図・断面図	7
Fig. 7 出土遺物実測図	8
<医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査>	
Fig. 8 調査区位置図	9
Fig. 9 A トレンチ平面図・断面図	11
Fig. 10 B トレンチ平面図・断面図	12
Fig. 11 C トレンチ平面図・断面図	13
Fig. 12 出土遺物実測図①	14
Fig. 13 出土遺物実測図②	16
<常盤インキュベーションセンター新営に伴う試掘調査>	
Fig. 14 調査区位置図	19
Fig. 15 調査区設定位置図	20
<吉田構内の立会調査>	
Fig. 16 調査区位置図	21
Fig. 17 調査区位置図	21
Fig. 18 調査区位置図	22
Fig. 19 調査区位置図	22
Fig. 20 調査区位置図①	23
Fig. 21 調査区位置図②	24
Fig. 22 調査区位置図	25
Fig. 23 調査区位置図	25
Fig. 24 調査区位置図	26
Fig. 25 調査区位置図	26
<付篇 吉田遺跡第Ⅰ地区A区の未報告図面について>	
Fig. 26 調査区位置図	27
Fig. 27 第Ⅰ地区A区平面図	28

Fig. 28 第Ⅰ地区A区断面図	30
Fig. 29 「不整形のビット」土器出土状況図	31

〈山口大学構内の調査区位置図〉

Fig. 30 吉田構内地区割及び主な調査区位置図 (昭和 41 年度～平成 14 年度)	53・54
Fig. 31 小串構内調査区位置図 (昭和 58 年度～平成 14 年度)	55
Fig. 32 常盤構内調査区位置図 (昭和 58 年度～平成 14 年度)	56
Fig. 33 白石構内 (幼稚園・小学校) 調査区位置図 (昭和 58 年度～平成 14 年度)	57
Fig. 34 白石構内 (中学校) 調査区位置図 (昭和 60 年度～平成 14 年度)	58
Fig. 35 光構内調査区位置図 (昭和 58 年度～平成 12 年度)	59

表 目 次

〈平成 13 年度山口大学構内遺跡調査の概要〉

Tab. 1 平成 13 年度山口大学構内遺跡調査一覧表	1
------------------------------	---

〈吉田構内経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新営) に伴う試掘調査〉

Tab. 2 出土遺物観察表 (土器)	8
---------------------	---

〈医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査〉

Tab. 3 出土遺物観察表 (土器)	17
---------------------	----

Tab. 4 出土遺物観察表 (鉄器)	18
---------------------	----

Tab. 5 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員	35
----------------------------	----

Tab. 6 山口大学埋蔵文化財資料館特別調査員	35
--------------------------	----

Tab. 7 山口大学構内の主な調査一覧表	36
-----------------------	----

第1章 平成13年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋蔵している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成13年度は事前調査は実施しなかったが、試掘調査3件、立会調査9件、計12件の調査を実施した。

Tab.1 平成13年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地図	構内地図面積	面積(m ²)	調査期間	調査担当	報告番号
試 掘	経済学部校舎改修(プレハブ校舎新設)	K-21		40	12月4・5日～10日～28日	村田	Fig.30 No.234
	医学部附属風呂洗浴立体駐車場新設	小串		229	2月26日～3月25日 1月1日～15日	村田	Fig.31 No.34
	インキュベーションセンター新設	常盤		60	11月12・20日～22日	村田	Fig.32 No.29
立 会	九田川河川局部改修(平成12年度工事追加)	K-9, L-8・9		42	5月8・9日 6月1日	村田	Fig.30 No.235
	総合研究棟(新式地外配管布設)	P・Q-18		60	5月16・22・25日, 6月6日	田嶋	Fig.30 No.236
	理学部改修1期(屋外配管布設)	M-18～20, N-19～21, O-19		76	7月5・17日, 8月24・27日, 9月10・18・19日 10月21日	村田	Fig.30 No.237
会 議	九田川河川局部改修	L-8		96	8月17・21日, 9月25日, 10月1・2・29・31日 11月16日	村田	Fig.30 No.238
	基礎震度防備(外灯新設)	I-14・15, J・L-15, M-15, N-16, Q-17・19, R-17・19, S・T・U・V-17		15.4	12月14・17・19・20日, 2月27・28日	田嶋	Fig.30 No.239
	理学部改修2期(ポンプ室配管布設)	M-19		11	12月21日	田嶋	Fig.30 No.240
	理学部改修2期(自転車置場・渡り廊下屋根新設)	M・N-20		196	12月25日, 1月7日	田嶋	Fig.30 No.241
	第1学生食堂トイレ改修	I・J-19		6	2月18日	村田	Fig.30 No.242
	経済学部校舎改修(プレハブ校舎配管布設)	L-21		10	2月21日	村田	Fig.30 No.243

吉田構内の調査 (本部、人文・教育・経済・理・農の各学部: 山口市大字吉田 1677-1, 教育学部附属養護学校:

同吉田 3003 所在)

試掘調査 1 件、立会調査 9 件を実施した。

吉田構内では、試掘調査 1 件、立会調査 9 件を行った。経済学部校舎改修（プレハブ校舎新設）に伴う試掘調査では河川跡を検出し、縄文土器、土師器、須恵器片が少量出土した。調査区周辺では既往の調査でこれと同一もしくは一連とみられる河川が検出されてい



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図

るが、遺物がほとんど出土しておらず、時期決定が困難であった。このため、今回の調査成果は河川の時期をとらえる上で貴重である。ただし、土層では切り合いで複数認められることから、慎重な検討が求められる。また、少量ではあるが縄文土器が出土したことは、調査区周辺に集落跡が存在したことを想起させるものであり、今後の調査が期待される。

立会調査では、総合研究棟新設（屋外配管布設）工事に伴う立会調査で、河川跡及び遺物包含層の可能性がある土層を検出したが、遺物は出土しなかった。基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査は吉田構内の広域で実施した。調査の結果、バス停付近の A 地点では河川埋土、本部 1 号館南側の G 地点では河川埋土の可能性がある土層、埋蔵文化財資料館敷地南西隅の I 地点では河川埋土もしくは遺物包含層の可能性がある土層、R I 実験研究施設から東門に至る道路沿いの J 地点では遺物包含層の可能性がある土層、K・L・M 地点では河川埋土を検出した。調査面積が狭小であったため、



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

遺物は出土しなかったが、上記地点周辺では今後の埋蔵文化財の保護に注意が必要である。理学部改修1期・2期工事に伴う立会調査は、理学部周辺の広範囲に渡って実施したが、顕著な遺構・遺物は確認できず、既往の調査結果同様、埋蔵文化財の分布が希薄な地域であることを裏付ける結果となった。その他の立会調査では、遺構・遺物は検出できなかった。

白石構内の調査（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石3丁目1-2、同小学校：白石3丁目1-1、岡山中学校：白石1丁目9-1所在）

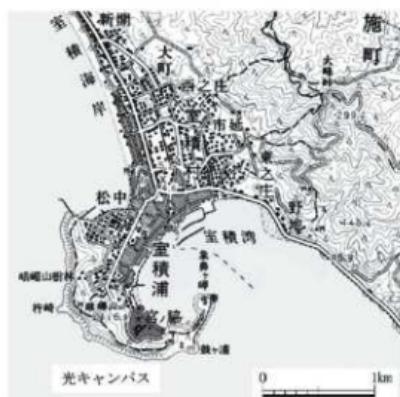
平成13年度は、当該地で掘削を伴う工事は計画されなかった。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市南小串1丁目1-1）

小串構内では、試掘調査1件を実施した。医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査では、現地表下1.6m以下の暗灰色砂、暗灰色粗砂から縄文時代～中世の土器が出土した。これらの遺物は近年の調査成果からも、病院敷地の北側丘陵地から流れ込んだものと考えられる。構内北部の広範囲で、これまで遺物の出土が確認されていた水田床土層より下の土層に遺物が含まれていることが明らかとなり、今後小串構内で地下掘削を伴う施設整備に際しては、より慎重に対応する必要が生じた。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎：同上野中町所在）

試掘調査1件を実施した。インキュベーションセンター新営に伴う試掘調査では、削平が著しく、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。



光構内の調査 (教育学部附属光小学校、同光中

学校: 光市室積 8 丁目 4 番 1 号所在

平成 13 年度は、当該地で掘削を伴う工
事は計画されなかった。

(田畑)

Fig.3 山口大学光構内位置図

第2章 平成13年度山口大学構内の試掘調査

第1節 吉田構内の試掘調査

1 経済学部校舎改修（プレハブ校舎新営）に伴う試掘調査

（1）調査の経過

吉田構内の経済学部校舎改修に付随して、プレハブ校舎新営が確定した。調査区東側に隣接する経済学部商品資料館の敷地では、商品資料館新営に伴い平成6年度に試掘調査を行っている¹⁾。このときの調査では、河川を検出しているが、時期の判別可能な土器は出土していない。そこで、隣接地の調査で検出していた河川の流路方向の確認と、時期確定のための遺物の発見を目的として、平成13年12月4・5日、10～28日に試掘調査を実施した。調査区は建設予定地の一部に、東西2m、南北20m、総面積40m²で設定した。

（2）基本層序（Fig. 6, PL. 3）

本調査区における基本層序は、第Ⅰ層：表土、第Ⅱ層：造成土、第Ⅲ層：水田耕土、第Ⅳ層：水田床土の順で、これより以下が河川理土となる。河川埋土は、砂・小礫・シルトの互層堆積となっている。また、埋土の状況から複数の河川が切り合っていることがうかがえる。今回の調査では、調査区底面付近で検出したシルト層がある時期の河川床面と捉えそれ以下の発掘は行わず、部分的な調査にとどめた。河川堆積土上面からシルト層までの堆積土の厚さは約50～80cmである。

（3）遺構（Fig. 5・6, PL. 2）

調査の結果、河川を検出したものの河川幅が広く、調査区の長さを越えていたために河川幅を確認することはできなかった。河川全体について東西方向の断面図は作成されていないため判断が難しいが、調査者は堆積土の状況から流路方向を概ね東西の方向と推定している。河川埋土からは縄文土器、土師器、須恵器が出土した。このうち、河川上面から出土した須恵器甕胴部片（Fig. 7-5）から、河川の最終堆積の



Fig.4 調査区位置図

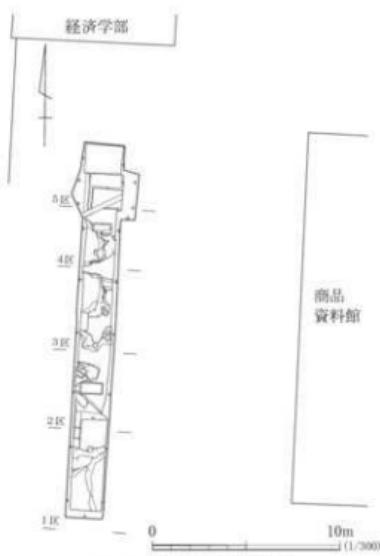


Fig.5 調査区設定位置図

に格子目タタキを施し、内面には当て具痕が残る。

(5) 小結

今回の調査区底面付近で検出したシルト層は、この河川のある時期の床面と考えられ、シルト層の下部には、砂・礫・シルト等の堆積が続いている。この状況は、隣接地の河川及び平成4年度農学部連合獣医学科棟新營に伴う発掘調査で確認された河川埋土の状況と同様である。調査区周辺では、前述した商品資料館敷地のほか、経済学部校舎敷地で今回検出した河川と同一もしくは一連とみられる河川検出されている。また、調査区の北東約30mに位置する東亜経済研究所敷地でも河川が検出されているが、遺物は出土していない。以上を踏まえると、今回調査区の遺物は調査区よりも標高が高い南側、ハンドボール場付近からの流れ込みであることが推測できる。

新營建物の掘削深度は最大で約70cmであるが、河川堆積土上面までの深さは現地表下約1mであるため、建物建設を予定どおり行っても、地中の埋蔵文化財の保護に支障をきたす恐れはない。このため、平成14年1月16日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会で審議した結果、発掘調査は今回の試掘調査にとどめることになった。

時期は古墳時代以降と比定することができる。土器は砂層とシルト層の境目でやや多く出土する傾向にあり、砂層からも出土したが、シルト層からは出土していない。

(4) 遺物 (Fig. 7, PL. 4)

出土遺物には土器のほか、植物遺体がある。土器はいずれも小片であり、図示できるものは少ない。1は縄文土器深鉢胴部である。胴部に隆帯を2条施すが、摩滅が激しい。前～中期か。2～4は縄文時代晩期中葉の土器である。2は深鉢の頸～胴部で外面に二枚貝条痕を施す。3は深鉢胴部で内面に二枚外条痕を施す。4は深鉢胴部で内外面に二枚貝条痕を施す。5は須恵器甕胴部である。外面

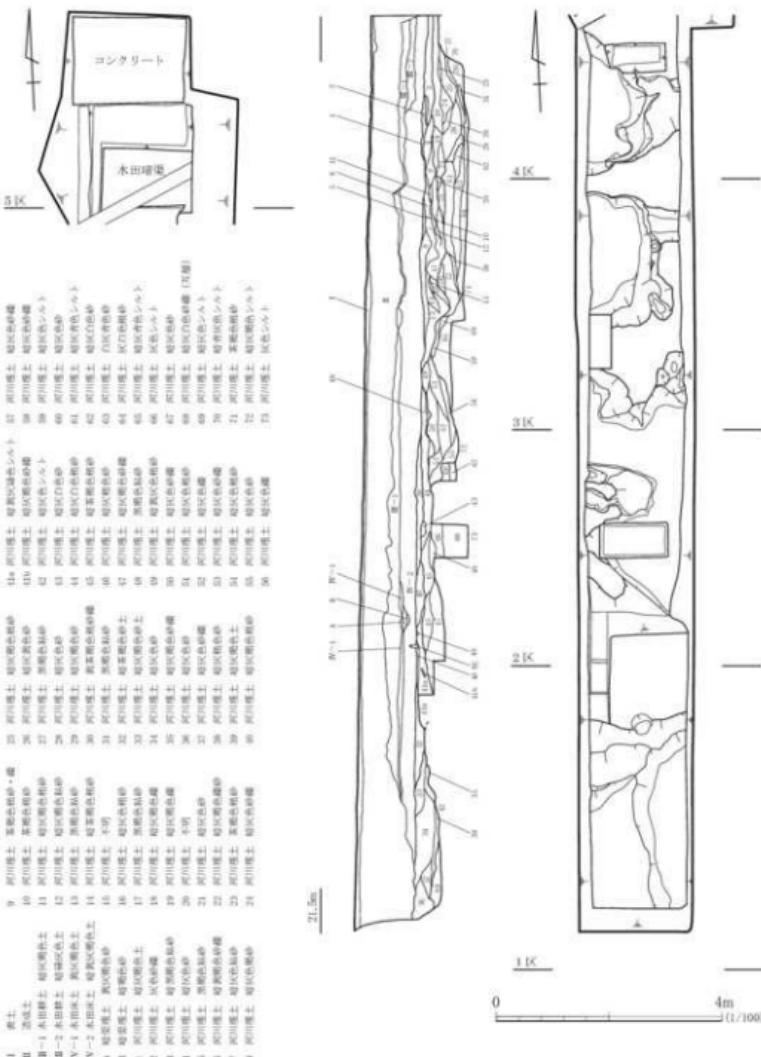


Fig.6 調査区平面図・断面図

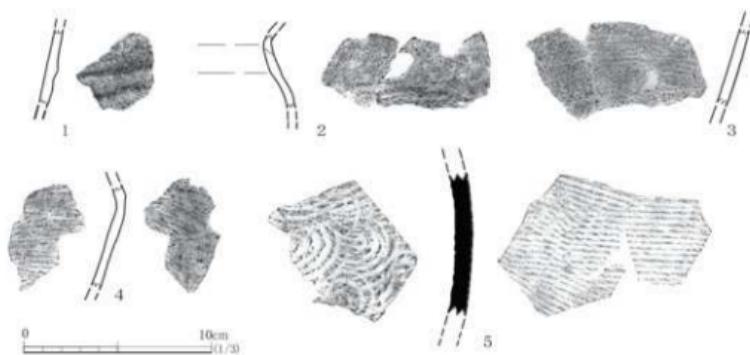


Fig.7 出土遺物実測図

[注]

- 1) 本報告は村田裕一「経済学部プレハブ校舎新宮に伴う試掘調査」（『平成14年1月16日埋蔵文化財資料館運営委員会資料』、2002年）を元に田畠が執筆した。
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「経済学部商品資料館新宮に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XIV』、2000年）
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内農学部連合棟医学部棟新宮に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、1994年）
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内経済学部校舎新宮に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、1992年）
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「資料館（東亜経済研究所）新宮工事に伴う予備発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』、2010年）

Tab.2 出土遺物観察表（土器）

遺物 番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (mm)	色 質		胎 土	備 考
								①外面	②内面		
1	河川		縄文土器 深鉢	脇部				①②暗灰黄色		1~3mmの砂粒を含む	
2	河川		縄文土器 深鉢	脇～ 胴部				①暗灰黄色 ②に、深い黄色		1~3mmの砂粒を含む 外面に二枚貝条痕	
3	河川	上面	縄文土器 深鉢	胴部				①暗灰黄色 ②黒褐色		1~3mmの砂粒を含む 内面に二枚貝条痕	
4	河川		縄文土器 深鉢	胴部				①灰黄色 ②黒色		1~3mmの砂粒を含む 内外面に一枚貝条痕	
5	河川	上面	領惠州 壺	胴部				①②青灰色		1mmの砂粒を含む	

第2節 小串構内の試掘調査

1 医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

小串構内に立体駐車場の新営が確定したことを受けて、建設予定地の埋蔵文化財発掘調査（試掘調査）を行った。調査は村田裕一が担当した。以前の調査では、昭和 58 ~ 60 年にかけて行われた、医学部体育館新営に伴う試掘調査¹⁾、医学部看護婦宿舎改修に伴う試掘調査²⁾および発掘調査によって、旧石器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器などが出士しており、立体駐車場の建設予定地においても同様の遺物包含層（淡青灰色粘土層）の存在が予想された。今回の新営建物は、基礎構造が深さ 10m のコンクリートパイル（中振工法、直径 40cm）を設置し、その上部に直方体の独立基礎を設置している。この基礎は、余掘りを含めて、平面で約 3m 四方以内、深さで現地表面から約 1.5m 以内である。したがって、立体駐車場建設による埋蔵文化財への影響は限定的と考えられたため、試掘調査を実施することとした。建設予定地内に 3 本の調査トレンチを設定し、西側から順に A ~ C トレンチとした (Fig. 8)。調査は平成 14 年 2 月 26 日～3 月 25 日および 4 月 1 日～15 日にかけて行われ、A ~ C トレンチの順に調査を進めた。最大となった A トレンチは、南北方向に長さ 24m、幅 5m、B トレンチは 6m 四方の正方形のトレンチ、C トレンチは南北方向に長さ 14.6m、幅 5m である。A トレンチの北側には巨大なコンクリート製基礎が埋没し、またこの基礎の南側には直径 20 ~ 30cm 程度の松材による建物基礎杭が数多く打ち込まれており、調査に支障をきたした。いずれも、この地にかつて建っていた北 2 病棟に関連のある基礎構造と考えられる。コンクリート製基礎は強固であったため撤去は不可能であり、以下の掘削は行わなかった。木製杭は可能な限り撤去しながら調査を進めたが、その分調査の進行に支障をきたした。B・C トレンチでの調査は順調に進行した。

今回の調査以前の小串構内では、現地表



Fig.8 調査区位置図

面から約1.0～1.5m程度に埋没する水田床土層から出土する旧石器・縄文時代および中世・近世・近代の遺物を主体とした調査が行われてきた。昭和61（1986）年に埋蔵文化財資料館によってなされた小串構内の埋蔵文化財に関する中間報告では、上記の所見をもとにした小串構内の遺跡調査基準が示されている。ところが、平成10・11（1998・1999）年度に行われた宇部市小串地区土地区画整備事業関係諸工事に伴う発掘調査で、水田床土層より下位に位置する土層から縄文・弥生・古墳時代の土器が出土した⁴⁾。特に、弥生時代から古墳時代にかけての土器が大量に出土し、従来の所見を大きく見直す必要に迫られた。このような背景により、今回の調査では現地表面から約1.5m以下の土層における遺物の有無の確認に主眼をおいた調査を実施した。

調査の結果、従来の所見どおり3つのトレンチで現地表面からの深さ約1.5mまでの範囲より近世・近代の遺物が出土した。これに加えて新たな所見として、Aトレンチでは現地表面から約1.6m以下に堆積する暗灰色砂から、Cトレンチでは現地表面から約2.3m以下に堆積する暗灰色粗砂から遺物が出土することを確認した。出土遺物は小片が多いものの、A・Cトレンチからは縄文時代から中世にわたる時期の土器が出土した。AトレンチよりもCトレンチの方が遺物量が少ないので、今回の調査地区内での遺物の分布は、調査区の西側に多く東側に行くにしたがって希薄となると推察される。

（2）基本層序（Fig. 9～11, PL. 7～9）

Aトレンチ東壁中央付近では、現地表面から深さ約10cmまでがアスファルト舗装、約20～60cmが造成土、約60～80cmが水田耕土、約80cm～1.1mが水田床土で、これ以下は地山である。地山は、現地表面からの深さ約1.1～1.6mが暗灰青色粘土、約1.6m以下は暗灰色砂となる。トレンチ底面は現地表面からの深さが約2.1m程度になる。

Bトレンチ北西隅では、現地表面から深さ約5cmまでがアスファルト舗装、約5～60cmが造成土、約60～80cmが水田耕土と水田床土でその下が地山となる。地山は、現地表面からの深さ約80～1.1cmが暗灰色粘土、約1.1～2.2mが暗灰色粗砂、約2.2m以下が暗灰粘質砂となる。トレンチ底面は現地表面からの深さが約2.1m程度になる。

Cトレンチ東壁南端では、現地表面から深さ約5cmまでがアスファルト舗装、約5cmから1.7mが造成土でその下が地山となる。地山は、現地表面からの深さ1.7～2.3mが暗灰色粘土、約2.3m以下が暗灰色粗砂となる。トレンチ底面は現地表面からの深さが約3m程度になる。

小串構内の試験調査

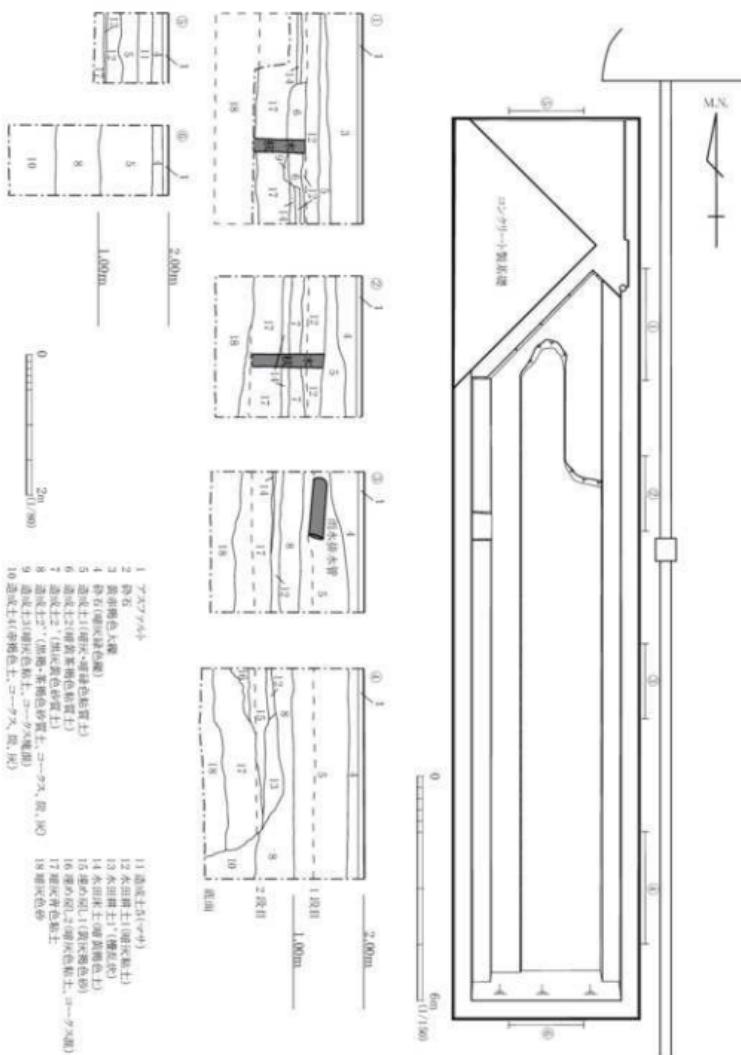


Fig.9 Aトレーン平面図・断面図

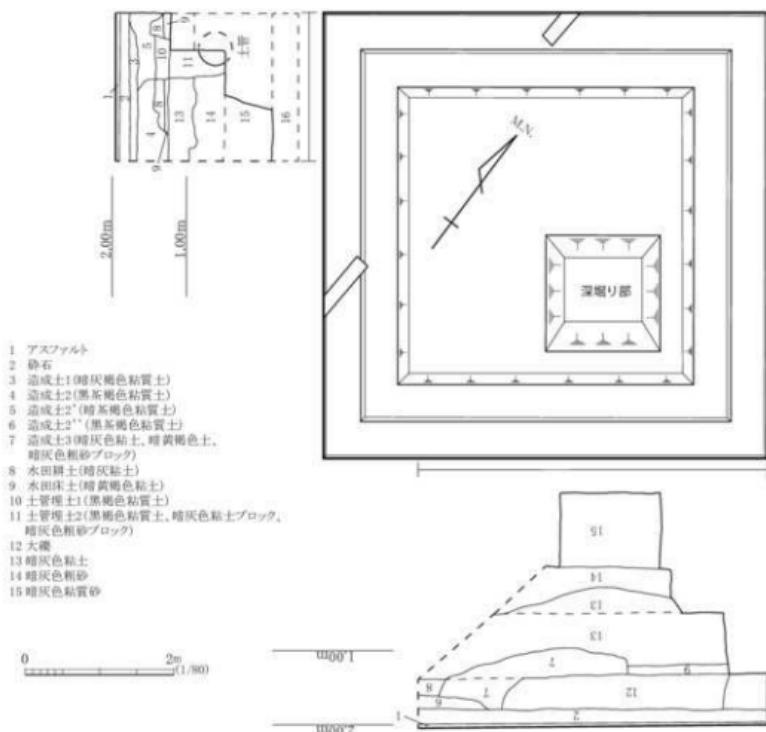
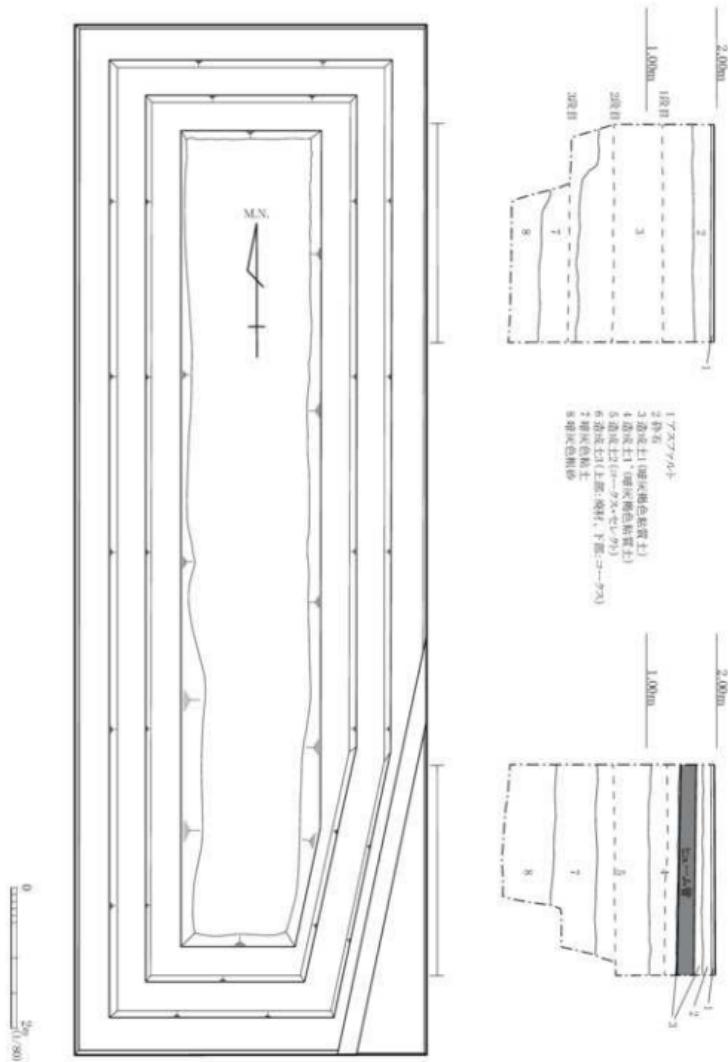


Fig.10 Bトレーニング平面図・断面図

(3) 出土遺物

Aトレーニチ (Fig.12, PL.10 ~ 13)

1～12は造成土より出土した陶磁器である。1は磁器の皿である。全体的に白色を呈するが、内面底部に淡い藍色の釉がかかる。2は陶器の碗である。外面に染付を施す。3は磁器の碗である。内面に圓線をひき、外面に染付を施す。4は白磁の碗である。5は磁器の染付皿である。口縁部は緩い小波状となる。内外面に染付が施される。6は陶器の碗である。外面の文様は回転具で施文されたと考えられる。上に薄く白い釉がかかる。7は紅皿である。外面は型成型である。内面および口唇部上面に透明釉を施す。8は陶器の口縁部片である。内外面に黄色の釉をかけるが、口唇部上面は無釉となる。9は磁器の底部



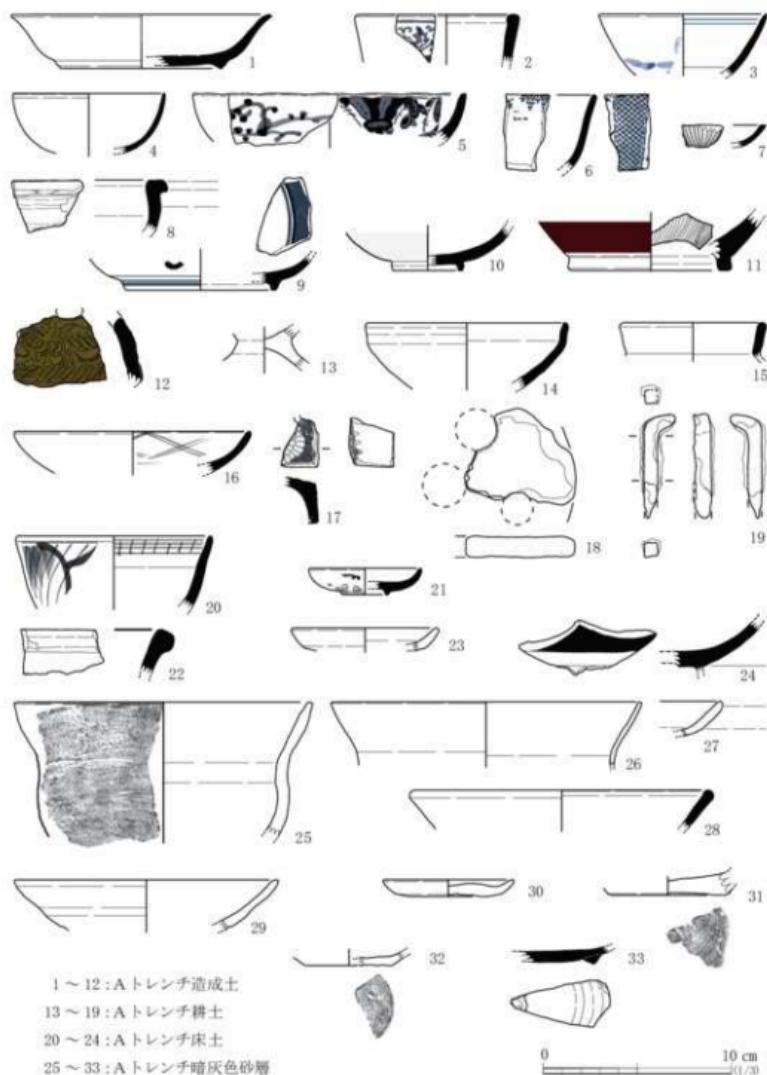


Fig.12 出土遺物実測図①

片である。内面および外面に圓線が描かれる。10は陶器碗の底部片である。高台付近は無釉となる。11は擂鉢の底部片である。鉄釉が施される。12は孔を有する陶器片である。外面に浮き彫りで文様が施される。置物か。

13～19は耕土より出土した。13は高坏の底部である。風化が激しく調整は観察できない。14は陶器の口縁部である。内面および外面脣部にかけて礫灰釉をかける萩の碗である。15は陶器の壺である。やや外傾する口縁部で、無釉である。16は磁器の染付皿である。17は方形を呈する陶器で、孔を有するため水滴と考えられる。上部に菊花文を施す。18はサナである。風化が激しく、一部被熱のためか赤化する。19は鉄釘である。脣部以下を欠損する。

20～24は床土より出土した。20は磁器で、口縁部内面に圓線をひき、外面にも染付を施す。21は磁器の小皿である。外面は明緑灰色を呈する。緑色の染付を施す。外面に砂粒が付着する。22は陶器の口縁部である。23は土師器の皿である。口縁部下に屈曲部をもつ。24は陶器の碗の底部片である。外面に黒色の釉をかけ、高台付近は露胎となる。

25～33は暗灰色砂層より出土した。25は縄文土器の口縁から脣部片である。脣部にくびれをもち、内外面に貝殻による条痕がわずかに残る。内面に口唇部から幅3cmほどの煤の付着がみられる。26は土師器壺の口縁部であり、頸部の屈曲部まで残存する。丁寧なナデを施す。27は土師器の坏である。脣部にやや緩い屈曲部をもつ。28は須恵器坏の口縁部片である。29は土師器の皿である。糸切りの際につけたと思われる跡が残る。30は土師器皿である。底部は歪みが大きい。31・32は土師器の底部片である。ともに底面に糸切り痕が残る。33は陶器の底部片である。内外面ともに無釉である。粘土紐を貼付けて高台とする。

B トレンチ (Fig.13, PL.13)

34・35は暗灰緑色粘土層(床土)より出土した。34は陶製の皿で、全体に薄く浅黄色の釉がかけてある。外面に幅広の浅い沈線が施されており、3条確認できる。35は磁器の碗である。外面に絵付けが施されている。

C トレンチ (Fig.13, PL.13)

36～38は暗灰色粗砂層より出土した。この層より上では、近代以降の遺物が主体となり、近世以前の遺物で図化できるものはなかった。36は土師器の皿である。37は土師器の壺である。口縁部下が肥厚し、低い棱をもつ。外面に煤の付着がみられる。38は土師器の底部片である。底面に糸切り痕が残る。

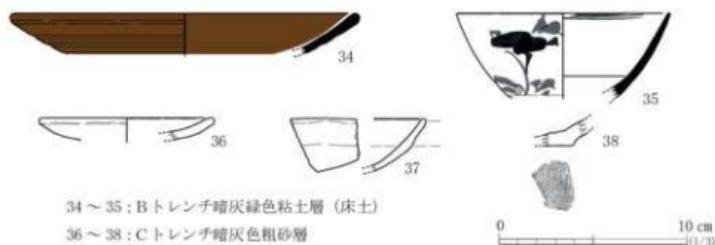


Fig. 13 出土遺物実測図②

(4) 小結

今回の調査における最大の成果は、現地表面から約 1.6m 以下からの遺物の出土を確認できたことであろう。これにより、小串構内には従来考えられていたよりも深部の土層に遺物を包含している場所が多く存在することが確実となった。

これまでの調査と同様に、床土に相当する層以上からは近世以降の遺物の出土比率が高い。報告はしなかったものの、B トレンチ 1・2 区の黒褐色造成土からは、近代以降の陶磁器が大量に出土している。しかしながら、A・C トレンチの暗灰色粗砂層からは縄文土器をはじめ、中世までの遺物が出土している。今回の調査で遺構は検出されていないが、A トレンチの状況をみると、当地点において遺物は一定量埋蔵されていると考えられる。暗灰色粗砂層は縄文～中世の遺物包含層として認識しなければならないだろう。今回、B・C トレンチの床土以下の層からの遺物出土量が少ないので、階段状の掘削により調査面積が少ないためであったとも考えられる。

今回の調査結果を踏まえて、平成 14 年度以降の調査が慎重に行われ、貴重な考古学的成果が得られている。例えば、小串構内において、遺物の遺存状態がよく、流れ込みによる堆積とは考え難い古代の遺物包含層が確認されている。今後、小串構内での地下掘削を伴う施設整備に際しては、今回の暗灰色粗砂層に相当する層にも注意を払いつつ、埋蔵文化財の保護に当たる必要がある。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新館に伴う試掘調査」『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985 年)

- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育馆新館に伴う発掘調査」『山口大学構内遺跡調査研究年報IV』、1986年)
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「小串構内医学部看護婦宿舎改修に伴う試掘調査」『山口大学構内遺跡調査研究年報V』、1987年)
- 4) 報告書未刊。
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「医学部地域医療教育研修センター新設工事に伴う予備発掘調査」『山口大学埋蔵文化財資料館年報8』、2014年)
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館「医学部職員宿舎他公共下水接続工事に伴う試掘調査」『山口大学埋蔵文化財資料館年報2』、2006年)
- 7) 注5) 同じ。

Tab.3 出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色・調 ①外表面・内面	胎・土	備考
1	Aトレンチ	造成土	罐器	蓋	口縁部～底部	(13.0)	(8.0)	2.9 素地 白色 輪 藍色・透明	精緻	底部内面に薄い藍色の釉を施す
2	Aトレンチ	造成土	陶器	碗	口縁部	(7.0)		素地 灰白色 輪 藍色	精緻	
3	Aトレンチ	造成土	罐器	碗	口縁部	(8.0)		素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	
4	Aトレンチ	造成土	罐器	碗	口縁部	(8.0)		素地 白色 輪 透明	精緻	
5	Aトレンチ	造成土	陶器	蓋	口縁部	(14.5)		素地 白色	精緻	
6	Aトレンチ	造成土	陶器	碗	口縁部			素地 白色 輪 藍・白色	精緻	
7	Aトレンチ	造成土	罐器	紅皿	口縁部			素地 白色 輪 透明	精緻	内面のみ施釉
8	Aトレンチ	造成土	陶器	鉢	口縁部			素地 にぶい赤 輪 黄色		口唇部上面 無釉
9	Aトレンチ	造成土	罐器	碗	底部		(8.0)	素地 白色 輪 藍色	精緻	
10	Aトレンチ	造成土	陶器	碗	底部		(3.0)	素地 淡黄色 輪 灰白色	精緻	裏灰釉 缺
11	Aトレンチ	造成土	陶器	桶鉢	口縁部		(8.0)	素地 に高脚側面 輪 暗褐色	鉄輪	
12	Aトレンチ	造成土	罐器	蓋	口縁部	(14.5)		素地 白色 染付 藍色	精緻	
13	Aトレンチ	耕土	土鍋器	高坪	底部			①明黄色 ②明黄色 を多く含む		
14	Aトレンチ	耕土	陶器	碗	口縁部	(10.0)		素地 灰色 輪 灰白色	精緻	
15	Aトレンチ	耕土	陶器	盆	口縁部	(7.0)		①② にぶい黄褐色	精緻	
16	Aトレンチ	耕土	罐器	蓋	口縁部	(12.0)		素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	
17	Aトレンチ	耕土	陶器	水滴				素地 灰白色 輪 白色・藍色	精緻	菊花文 方形
18	Aトレンチ	耕土	素焼き	チナ				①② にぶい黄褐色	0.5～1.5mmの砂粒 を含む	一部赤化 風化が激しい
20	Aトレンチ	床土	罐器	碗	口縁部	(10.0)		素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	

遺物番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調 ①外側②内面	胎土	備考
21	Aトレンチ	床土	磁器 小皿	口縁部～底部	(6.0)	(2.4)	1.4	①灰白色 ②明瞭灰色	精緻	素地 灰白色 外面に砂粒が付着
22	Aトレンチ	床土	陶器 鉢	口縁部				①灰白色 ②灰白色	精緻	素地 素褐色
23	Aトレンチ	床土	土師器 皿	口縁部	(7.9)			①灰白色 ②灰白色		
24	Aトレンチ	床土	陶器 瓶	底部				素地にぶい黄色 橙色、釉 黒色		0.5～1.5mmの砂粒 を少量含む
25	Aトレンチ	堆灰色砂 層	陶土器 践	口縁部～ 底部	(15.9)			①にぶい黄色 ②明瞭灰色		0.5～4mmの砂粒を 多く含む
26	Aトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 甌	口縁部	(16.6)			①オリーブ黄 色②灰黄色		0.2～0.5mmの砂粒 を少量含む
27	Aトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 坪	口縁部				①灰白色 ②灰白色		黒
28	Aトレンチ	堆灰色砂 層	乳頭器 坪	口縁部～ 底部				①灰黄色 ②浅黄色		0.2～1mmの砂粒を 少數含む
29	Aトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 皿	口縁部	(14.1)			①にぶい褐色 ②にぶい黃褐色		0.2～0.5mmの砂粒 を少量含む
30	Aトレンチ	堆灰色砂 層	カワラケ	口縁部～ 底部	(7.0)		0.9	①にぶい褐色 ②にぶい褐色		0.5～3mmの砂粒を 多く含む
31	Aトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 甌	底部	(6.4)			①灰白色 ②灰黄色		0.5～1mmの砂粒を 少數含む
32	Aトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 坪	底部	(4.8)			①灰白色 ②浅黄色		回転あ切り
33	Aトレンチ	堆灰色砂 層	陶器 瓶	底部				①灰白色 ②灰白色		高台は粘土柱を塗付 ける
34	Bトレンチ	床土	陶器 皿	口縁部	(18.6)			素地 灰白色 釉 浅黄色	精緻	外面に浅い幅広の沈 線を施す
35	Bトレンチ	床土	磁器 瓶	口縁部	(11.4)			素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	
36	Cトレンチ	堆灰色砂 層	カワラケ	口縁部	(9.3)			①淡黃褐色 ②淡青褐色		0.5～1mmの褐色砂 粒を少數含む
37	Cトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 坪	口縁部				①灰白色 ②浅黄色		0.5～1.5mmの砂粒 を少數含む
38	Cトレンチ	堆灰色砂 層	土師器 皿	底部				①淡黃褐色 ②淡青褐色		0.2～1mmの砂粒を 少數含む

Tab.4 出土遺物観察表(鉄器)

遺物番号	出土遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
19	Aトレンチ	耕土	針	0.33	1.79	0.9	18.02	

第3節 常盤構内の試掘調査

1 常盤インキュベーションセンター新営に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

常盤構内にインキュベーションセンター（現：大学研究推進機構・産学公連携センター ビジネス・インキュベーション棟）の新営が確定したことをうけて、平成13年11月12・20～22日に建設予定地の試掘調査を行った。¹⁾ 調査トレンチは建設予定地にL字形に近い配置で2ヶ所設定し、南北方向のものをAトレンチ、東西方向のものをBトレンチとした。Aトレンチは東西に幅2m、南北に長さ13.5mで計画したが、南から6mの地点までを掘削した時点で、現地表面から約1.5mの地点で旧建物のコンクリート基礎を検出したものの、深さ約2mまで掘り下げるも造成土の範囲内にとどまり地山に到達しなかった。このため、南から6mの地点より北側では、トレンチ幅を拡張し、深部への掘削を試みた。造成土は予想以上に厚く、現地表面から4m以上で地山上面に到達したが、遺構・遺物は検出できなかった。Bトレンチは南北に幅3m、東西に長さ7mの調査区である。Aトレンチ同様に遺構・遺物は検出できなかった。

(2) 基本層序 (PL. 15)

Aトレンチでは、現地表下約30cmまでがマサ土の表土、以下約30cm～3.5mが造成土、約3.5～4mが水田耕土で、その下が地山となる。地山は、現地表下約4.0～4.3mが青灰色粘質土、約4.3～4.5mが黄灰色粘質土となる。地山は变成岩質の岩盤風化土である。

Bトレンチ北壁の層序は現地表下約50cmまでがマサ土の表土、以下約50cm～1.7mが造成土、約1.7～2.0mが黒褐色粘質土の旧表土、約2.0～2.6mが地山の黄褐色粘質土で、同層も变成岩質の岩盤風化土である。

(3) 小結

今回は、Aトレンチの水田耕土から近世もしくは近代と考えられる土師質土器・瓦片が出土したが、遺構及び遺物包含層は検出できなかった。常盤構内では、本来の埋蔵



Fig.14 調査区位置図

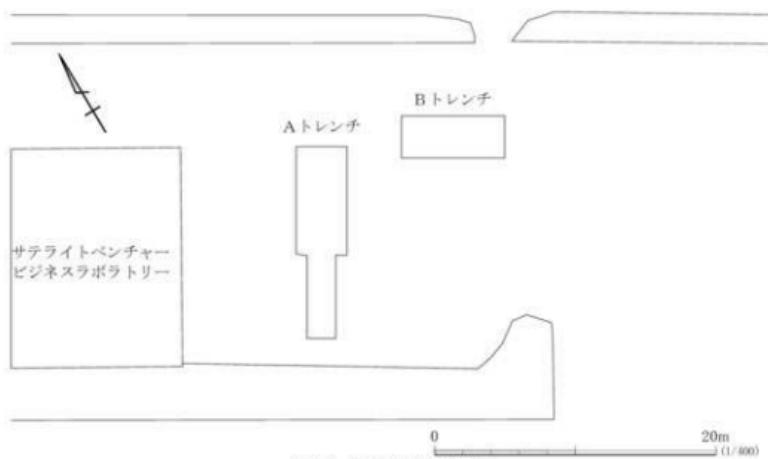


Fig.15 調査区設定位置図

文化財調査の対象となるのは、大学造成土および旧水田耕作に関連する土層より下位に位置する火山灰質の堆積土層である。しかし、今回の調査地ではこのような堆積土層は全く見られず、すぐに岩盤風化土となっている。しかも、この岩盤風化土の地山も A トレンチと B トレンチでは、検出標高に約 2 m の高低差がある。これは、B トレンチ東壁土層の状況から、旧表土が北から南に大きく傾斜していることに起因すると考えられる。

以上から、今回の調査地では、過去の水田開発などに起因する土地変形行為がきわめて激しく、今回の調査地の全域において、埋蔵文化財が存在している可能性はきわめて低いと考えられる。

[注]

- 1) 本報告は村田裕一「常盤インキュベーションセンター新宮に伴う試掘調査」(『平成 14 年 5 月 30 日 埋蔵文化財資料館運営委員会資料』、2002 年) を元に田畠が執筆した。

第3章 平成13年度山口大学構内（吉田構内）の立会調査

1 九田川河川局部改良（平成12年度工事追加分）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 K-9, L-8・9

調査期間 平成13年5月8・9日、6月1日

調査面積 約42m²

調査結果 この工事は昭和62年度から行われている。今回は平成12年度の追加工事として、長さ約21mについて現地表下約5.5～6.0mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約2mまでが造成土で、以下で地山が検出された。遺構、遺物は検出されなかった。



Fig.16 調査区位置図

2 総合研究棟新営（屋外配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内P・Q-18

調査期間 平成13年5月16・22・25日、6月6日

調査面積 約60m²

調査結果 総合研究棟新営に伴い排水管と橋の新設工事が行われた。掘削深度は管路が80～145cm、橋が190～212cmである。調査区西部では、現地表下約45cm以下でオーリブ黄色シルト等の地山を検出した。一方、調査区中央部では同約93cm以下、東部では同67～109cm以下で砂礫・粘土層の河川埋土を検出した。この河川から遺物は出土しなかつたが、周辺の既往の調査から縄文時代の河川である可能性がある。



Fig.17 調査区位置図

3 理学部改修1期（屋外配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-18～20, N-19～21, O-19

調査期間 平成13年7月5・17日、8月24・27日、9月10・18・19日、10月21日

調査面積 約76m²



Fig.18 調査区位置図

調査結果 工事に伴い、A～G地点で調査を行った。A～C地点では現地表下30～120cmまで掘削が行われ、同70cm以下で部分的に地山を確認した。D地点・E地点西側、F地点では現地表下約100cmで黄灰・黄褐色シルトの地山を確認した。G地点では、現地表下約30cmで黄灰色の地山を確認した。いずれの地点でも遺構・遺物は検出できなかった。

4 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-8

調査期間 平成13年8月17・21日、9月25日、10月1・2・23・31日、11月16日

調査面積 約96m²



Fig.19 調査区位置図

調査結果 平成13年度の工事では、長さ約50mについて現地表下約5.5～6.0mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約2mまでが造成土で、以下で地山が検出された。遺構、遺物は検出されなかった。

5 基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I - 14・15, J・L - 15, M - 15, N - 16, Q - 17・19, R - 17・19, S・T・U・V - 17

調査期間 平成13年12月14・17・19・20日、2月27・28日

調査面積 約15.4m²

調査結果 吉田地区基幹環境整備の一環として、バス停から埋蔵文化財資料館に至る道路、総合研究棟から家畜病院に至る道路、R1実験研究施設から東門に至る道路の18箇所に外灯が新設されることになった。A・B、E～R地点は外灯の基礎部分で平面形約90cm×90cm、C・D地点も上記とほぼ同規模で管路接続に伴い掘削が行われた。

A～I地点はバス停から埋蔵文化財資料館の間の調査地点である。A地点は、現地表下約110cmまでが造成土・水田耕土で、以下約110～140cmで灰色(7.5Y4/1)粘土等の河川埋土を検出した。B地点は、現地表下約115cmまでが造成土・水田耕土で、約115cm以下ではオリーブ灰色(7.5Y6/3)シルトの地山を検出した。C・D地点は現地表下約100cmまで掘削を行ったが、全て造成土の範囲内であった。E地点は、現地表下約78cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、78cm以下では灰色(10Y5/1)シルトの地山を検出した。F地点は、現地表下約50cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、約50～60cmで河川埋土の可能性がある暗緑灰色(7.5GY4/1)粘土、約60cm以下で青灰色(10BG5/1)シルトの地山を検出した。G地点は現地表下約100cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、約



Fig.20 調査区位置図①

100～136 cmで河川埋土の可能性がある黒色(7.5YR2/1)シルトを検出した。H地点は、現地表下約54 cmまでが造成土で、約54 cm以下では灰オリーブ色(5Y6/2)シルトの地山を検出した。I地点は、現地表下約90 cmまでが造成土で、約90～100 cmで水田耕土、約100～126 cmで遺物包含層か河川埋土の可能性がある灰色(5Y4/1)シルト、約126 cm以下でオリーブ灰色(5Y6/2)シルトの地山を検出した。

J～O地点はR・I実験研究施設から東門の間の調査地点である。J地点は、現地表下約105 cmまでが造成土・水田耕土・水田床土で、約105～125 cmで遺物包含層の可能性がある暗オリーブ灰色(5GY3/1)粘質土、約125 cm以下で地山である明黄褐色(10YR7/6)粘質土を検出した。

K・L・M地点では、造成土・水田耕土・水田床土の直下、現地表下約78 cm(K地点)・約101 cm(L地点)・約111 cm(M地点)で河川埋土を検出した。N地点では、現地表下約148 cmで水田耕土を検出した。O地点は、現地表下約60 cmまでが造成土で、約62 cm以下では黄色(2.5Y8/6)シルトの地山を検出した。

P～R地点は総合研究棟から家畜病院の間の調査地点である。いずれも削平を受けており、P地点で現地表下約46 cm、Q地点で同約35 cm、R地点で同約50 cmで地山を検出し、その間の埋土は全て造成土であった。

今回、いずれの地点からも遺物は出土しなかったが、A・F・G・I・J～M地点周辺では、今後も埋蔵文化財の保護に注意が必要である。



Fig.21 調査区位置図②

6 理学部改修2期（ポンプ室配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M-19

調査期間 平成13年12月21日

調査面積 約11m²

調査結果 堀削工事はポンプ室への配管布設に伴い、堀削幅約70cm、長さ約16m、深さ約80cmの規模で行われた。調査の結果、調査区東部では、現地表下約65cmで水田耕土を検出した。一方、調査区西部では造成土を検出するにとどまり、埋蔵文化財に支障はなかった。



Fig.22 調査区位置図

7 理学部改修2期（自転車置場・渡り廊下屋根新設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 M・N-20

調査期間 平成13年12月25日、平成14年1月7日

調査面積 約196m²

調査結果 自転車置場及び人文学部・理学部間の渡り廊下屋根の新設工事に伴い、堀削工事が行われた。渡り廊下新設箇所の堀削深度は約60cmである。東部では、現地表下約23cmでぶい褐色（7.5YR5/4）シルトの地山を検出したが、西部では水田耕土を検出するにとどまった。自転車置場新設箇所の堀削深度は約70cmである。西部では現地表下約30cmで明黄褐色（2.5Y7/6）シルトの地山を検出したが、東部は造成土の範囲内であった。



Fig.23 調査区位置図

8 第1学生食堂トイレ改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I・J-19

調査期間 平成14年2月18日

調査面積 約6m²



Fig.24 調査区位置図

調査結果 第1学生食堂のトイレ改修に伴う給水管・排水管（食堂東側）、量水器（食堂西側）新設工事に伴い、立会調査を行った。食堂東側では現地表下約60cm、量水器新設箇所では約50cmまで掘削が行われたが、いずれも造成土の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

9 経済学部校舎改修（プレハブ校舎配管布設）工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 L-21

調査期間 平成14年2月21日

調査面積 約10m²



Fig.25 調査区位置図

調査結果 第2章で報告した経済学部プレハブ校舎に新設する給排水管工事を対象に立会調査を行った。工事では現地表下約60cmまで掘削を行ったが、いずれも造成土の範囲内であり、埋蔵文化財に支障はなかった。

付篇

吉田遺跡第I地区A区の未報告図面について

田畠 直彦

1はじめに

当館は平成4年度に、吉田構内への統合移転時に発掘調査が行われた吉田遺跡第I地区A区の報告を行った。その際、遺構図に関しては断面図は存在したもの、平面図が全て行方不明であったため、断面図は基本層序の提示にとどめ、遺物中心の報告を行わざるを得なかった。その後、平成9年4月に至り、教育学部地理学準備室から統合移転時の発掘調査の記録類が新たに発見され、この中に吉田遺跡第I地区A区の平面図等が含まれていた。この発見により、第I地区A区の調査区とおよそその位置が明らかになった。また、埋蔵文化財資料館で保管している図面類を整理した際、第III地区の図面が収納されている袋に第I



地区A区の「不整形のピット」の土器出土状況図が含まれていることが確認された。以上の新たな発見を受け、以下では、これらの図面について追加報告を行いたい。

2 平面図

原図は縮尺1/80の平板図である。図の下に「S41.7.16 吉田第Ⅰ遺跡」と記載されており、右側には赤字で「緊急調査」と書き込まれている。図に地区名の記載はないが、溝に直交して設けられた第Ⅰ～Ⅳトレンチまでの記載があり、Ⅳトレンチの中央付近には「不整形のピット」とみられる遺構の平面形が記されている。「不整形のピット」付近には十字状に線が描かれている。これが何を意味するかは不明であるが、恐らく実測上の基準線と推測される。また、溝についての記載はないが、この平面図は後述する断面図と対応していることから、大学会館前庭部南側の水路であることが分かる。以上からこの平面図は第Ⅰ地区A区のものと断定できる。なお、第Ⅰ地区A区は第Vトレンチも存在したとされるが、記載がないため詳細は不明である。ただし、第Ⅰトレンチの西側、第Ⅱトレンチの南側には記載のないトレンチがあり、いずれかか該当する可能性が高い。また、第Ⅰ地区南側にはL字状の範囲が破線で描かれているが、その形状と現状から、構内道路予定箇所を描いたものと推測される。

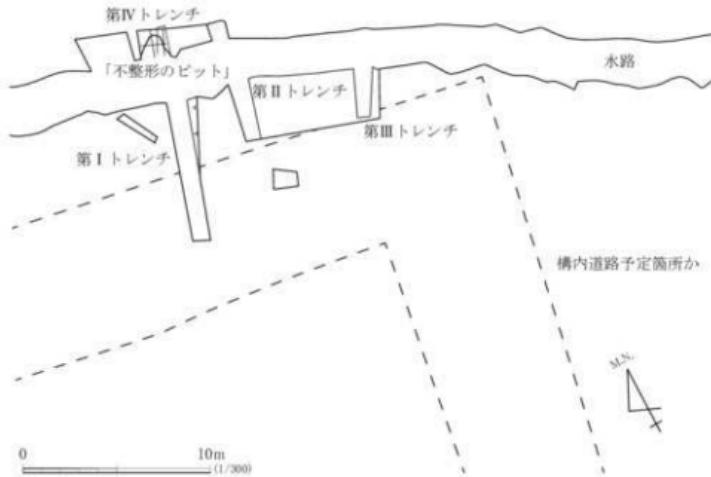


Fig.27 第Ⅰ地区A区平面図

第Ⅰ地区A区の位置については、第Ⅰ地区A区全景写真(PL. 16 (1))と第Ⅰ地区E区調査前全景写真³⁾を比較すると、構内道路が南側へ緩やかに曲がる付近に調査区が位置することがわかる。以上から、Fig. 26で示したように第Ⅰ地区A区のおおよその位置は図書館の北東側であることが判明した。

3 断面図

現在、埋蔵文化財資料館では第Ⅰトレンチから第Vトレンチの断面図及び、排水溝(現水路)南壁の断面図を保管している。今回は、調査区のおおよその位置が判明した、第Ⅰ～IVトレンチの断面図と水路南壁の断面図について報告する。なお、第Ⅱトレンチ東壁断面図、第Ⅲトレンチ東壁断面図の正確な位置は不明である。第Ⅳトレンチ東壁断面図も位置は不明であるが、「不整形のピット」とみられる落ち込みがみられる。

基本層序については、前回の報告に基づき、以下のように整理した。第Ⅰ層：耕土 層厚約14～51cm、第Ⅱ層：茶褐色土 土師器や須恵器を包含する(包含層Ⅰ) 層厚約20～59cm、第Ⅲ-1層：黒色粘質土 弥生土器を包含する(包含層Ⅱ-1) 層厚約9～50cm、第Ⅲ-2層：黒色砂質土 弥生土器を包含する(包含層Ⅱ-2) 層厚約11～74cm、第Ⅳ層：灰青色砂質土 弥生土器を包含する(包含層Ⅲ) 層厚約6～62cm、V-1層：黄褐色砂礫(包含層か)、V-2層：黄褐色粘質土(地山)、V-3層：青灰色粘質土(地山)

包含層については、現在も水路として名残をとどめる谷の埋土と考えられる。また、V-1層については、近年の図書館改修工事及び環境整備工事に伴う本発掘から、谷埋土である可能性が高い。断面図には標高の記載がないため詳細は知り得ないが、第Ⅰトレンチ西壁断面図では、V-1層が第Ⅰトレンチ水路南側で約60cm落ち込み、南端部では約35cm上昇する。また、水路南壁断面図では、第Ⅰトレンチ西側が一段高く、そこから東西に向かつて落ち込んでおり、以下の堆積が複雑であったことがうかがえる。また、第Ⅰトレンチ西壁断面図をみると、「不整形のピット」埋土のうち上層はⅢ-1層、下層はⅢ-1層と同一とされていることから「不整形のピット」は谷の肩部であり、そこに土器を集中的に廃棄したものであった可能性が高い。第Ⅳトレンチ東壁断面図にみられるややオーバーハングする柱穴状の落ち込みは護岸用の杭もしくは自然木の樹根等の可能性が考えられよう。

4 「不整形のピット」土器出土状況図

「不整形のピット」出土土器については、第Ⅰ地区A区の報告を担当した豆谷和之氏に

吉田遺跡第1地区A区の未報告箇面について

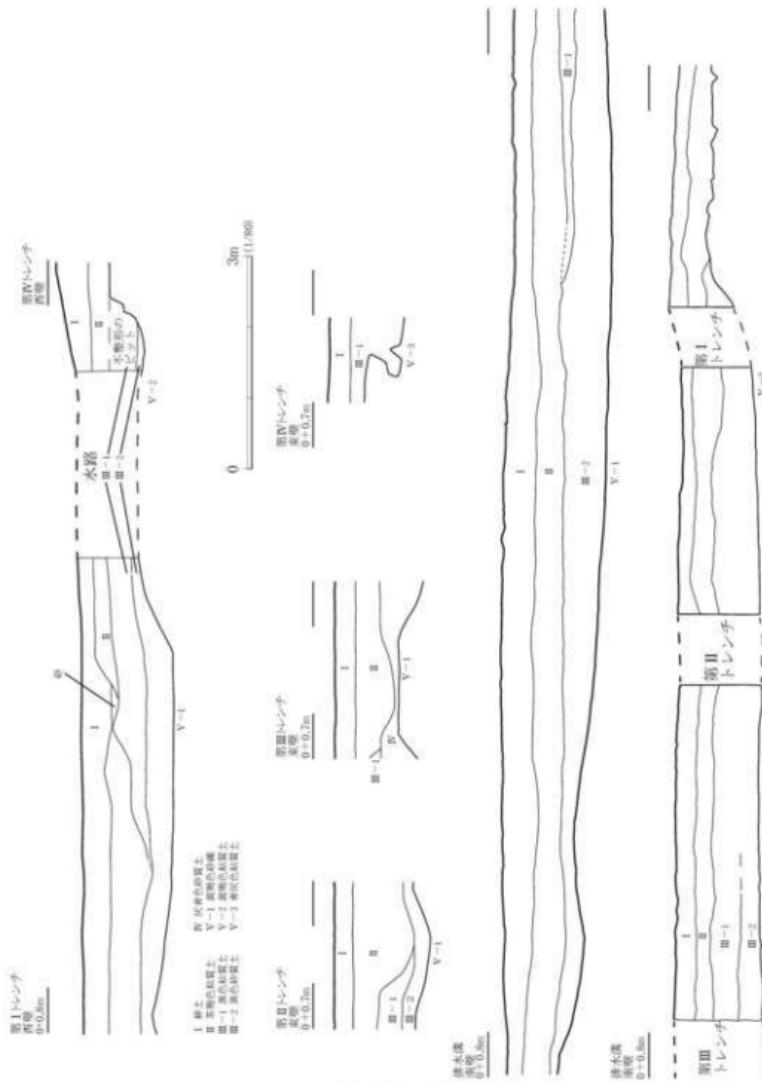


Fig.28 第Ⅰ地区A区断面図

断面図・「不整形のピット」土器出土状況図

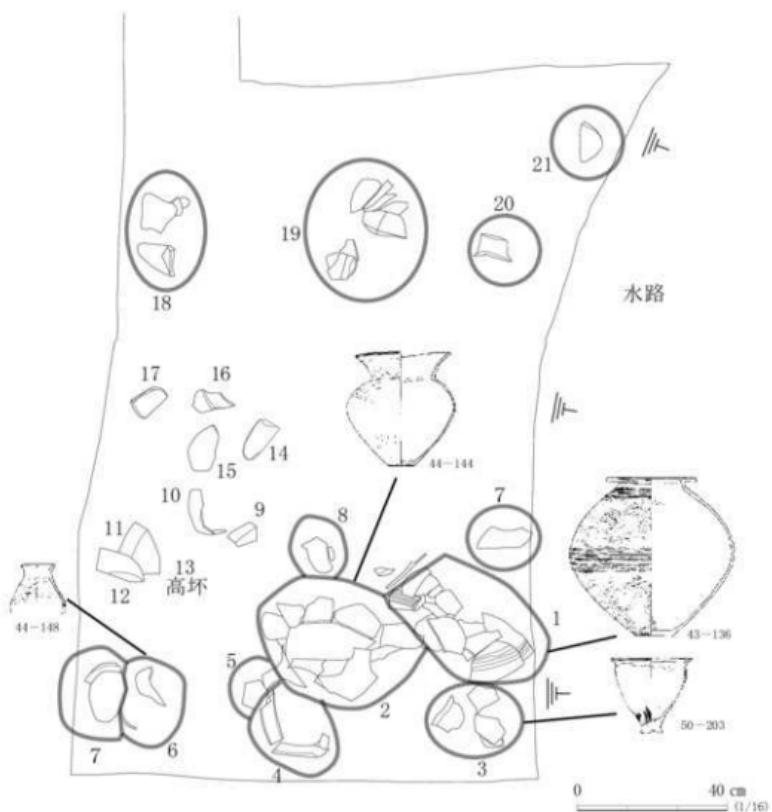


Fig.29 「不整形のピット」土器出土状況図

よって詳細に検討されている。その検討の際示された出土状況図については、出土状況写真をトレースしたものと推測される。¹⁾今回報告する出土状況図は、冒頭で述べたように、第III地区の図面が入った袋に収納されていたものである。この図面には、「IV トレンチ平面図 1/10」と記載されており、一部について土器破片の形状が概ね一致するため、「不整形のピット」土器出土状況図と断定できた。恐らく出土状況撮影後に若干の土器を取り上げた後に作成されたものであろう。また、水路との位置関係からFig. 29の左側が概ね北側になることも判明した。Fig. 29をみると、土器には取り上げ番号と思われる番号が付され

ており、破片が集中する箇所は同一個体とおぼしきまとまりで番号が付されていた。番号は1~21まである。Fig. 29の7、8、12を結ぶ線から上は出土状況写真には写っていない。しかし、3から21までの直線距離は約1.8mで、Fig. 27の「不整形のピット」とみられる平面形と概ね一致することから、1~21は「不整形のピット」出土土器である可能性が高い。これらの番号と報告された土器の注記¹⁾とを比較してみたい。1次資料の土器の注記を比較したところ、44~144は「S41.7.15 吉田 第ⅠトレンチA4トレンチ②」と注記されていることから、この取り上げ番号が付された可能性が高いことが判明した。しかし、他の3点については記載がなかった。一方2次資料のうち、167には「吉田 第ⅠトレンチA4トレンチ②」と注記され、3次資料のうち、231には「S41.7.15吉田第Ⅰ地区A区4トレンチ-2」の注記がみられたことから、この2点については、144の下から出土した可能性が考えられる。

5 おわりに

以上、第Ⅰ地区A区の未報告図面について報告を行った。前回報告の「不整形のピット」については、図面を検討した結果、谷の肩部に土器を集中的に廃棄したものであった可能性が高いと結論づけた。また、前回報告の、不整形のピット出土土器以外の遺物は、調査区の図面を見る限り、谷埋土から出土したものとみられる。これらは大学会館前庭部付近に存在した集落から廃棄されたものと推測でき、今後の調査による再検証が待たれる。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田遺跡第Ⅰ地区A区の調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅠ』、1993年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田遺跡第Ⅰ地区E区の調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅡ』、1994年）
- 3) 前掲注1) 文献
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「図書館改修工事及び環境整備（図書館周辺道路迂回）工事に伴う本発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年）
- 5) 豆谷和之「吉田遺跡第Ⅰ地区A区出土の弥生時代中期後半の土器について」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅠ』、1993年）
- 6) 前掲注1) 文献

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則

(設置)

第1条 山口大学に山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）を置く。

(資料館の業務)

第2条 資料館は、学内の共同利用施設として、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 山口大学構内等から出土した埋蔵文化財の収藏・展示及び調査研究
- 二 山口大学構内等における埋蔵文化財の発掘調査並びに報告書の刊行
- 三 その他の埋蔵文化財に関する必要な業務

(運営委員会)

第3条 資料館に関する事項を審議するため、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する規則は、別に定める。

(館長)

第4条 資料館に館長を置く。館長は委員会の議を経て学長が委嘱する。

- 2 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 館長は、資料館の業務を掌理する。

第5条 資料館には調査員若干名を置く。

- 2 調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。
- 3 調査員は、資料館の業務を処理する。

(特別調査員)

第6条 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

2 特別調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、資料館に必要な事項は別に定める。

山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学埋蔵文化財資料館資料館規則（昭和53年規則第39号。以下「資料館規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に關し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）に關し、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 管理及び運営に關する事項
- (2) 整備充実に關する事項
- (3) 資料館館長の人事に關する事項
- (4) 運営に要する経費に關する事項
- (5) その他資料館の管理及び運営に關し、必要な事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 資料館館長
- (2) 各学部から選出された教官各1名
- (3) 事務局長

(任期)

第4条 前条第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第6条 運営委員会は、委員の過半数により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 第3条第3号の委員は、第2条第3号に掲げる事項の議決には加わらないものとする。

(幹事)

第7条 運営委員会に幹事を置き、総務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(委員以外の出席)

第8条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

第9条 運営委員会の事務は、総務部研究協力課において処理する。

第10条 この規則に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

Tab.5 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員 (平成13年度)

部局名	氏名	官職	任期	備考
人文学部	中村友博	教授	平13.4.1～平15.3.31	
教育学部	森下徹	助教授	平13.4.1～平15.3.31	
経済学部	木部和昭	助教授	平13.4.1～平15.3.31	
理学部	加納隆	教授	平13.4.1～平15.3.31	資料館長
理学部	増本誠	助教授	平13.4.1～平15.3.31	
医学部	大林雅之	教授	平13.4.1～平15.3.31	委員長
工学部	中園眞人	教授	平13.4.1～平15.3.31	
農学部	西山壯一	教授	平13.4.1～平15.3.31	
事務局	鎌田賢	事務局長	平13.4.1～平15.3.31	

Tab.6 山口大学埋蔵文化財資料館特別調査員

部局名	氏名	官職	専攻等	備考
人文学部	橋本義則	教授	文献史学	平成13年度
機器分析センター	永尾隆志	教授	地質学(岩石)	平成13年度
農学部	宇都宮宏	講師	生物学(植物)	平成13年度
農学部	白水完治	助手	生物学(動物)	平成13年度

山口大学構内の主な調査

Tab.7 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年	調査名	構内地点	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L-N-15	1	309	土壤・柱穴	弥生土器、土師器、瓦窓器	事前	調査担当 小野忠熙	年報 11/11
	第II地区家畜病院新宮	R-20-21 S-T-19-20	2	2,000	廣、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、瓦窓器	#	#	年報 3
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試験	#	
	第IV地区牛舎新宮	S-T-10-11	4	300	弥生溝・土壤、古墳窓穴住居、中世住跡・廣	弥生土器、土師器、瓦窓器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	
	第IV地区		5				試験	#	
昭和42年	第III地区杭削区 おひびき上級技術	D-19-20 E-17-19～21 F-17-18	6	1,600	杭削、弥生窓穴住居	弥生土器、土師器、瓦窓器、瓦質土器、矢板状木杭	事前	#	
	第III地区南区	G-21～23 H-22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	#	#	
	第III地区北区	H-20 I-19-21 J-20-21	8	1,400	窓穴住居、廣、土壤、柱穴		#	#	
	第III地区東南区	G-23 H-23-24 I-J-24 K-23-24 L-23	9		弥生窓穴住居	弥生土器	#	#	
	第V地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試験	#	
	第V地区学生食堂	J-20	11		弥生溝、古墳土壤	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壤	弥生土器、土師器	試験	調査担当 山口大学吉田遺跡調査団	
	第I地区C区 大学本部新宮	K-L-14	13	600	窓穴住居、廣、土壤	土師器、瓦窓器、瓦質土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、瓦窓器	試験	#	
	第I地区DK第1地点	L-13	14		近世大廣	弥生土器、木炭屑	#	#	
昭和46年	第I地区DK第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	
	第I地区DK第3地点	M-13-14	16		土壤、柱穴	弥生土器、瓦質土器	#	#	
	第I地区DK第4地点	M-N-14	17		土壤、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	
	第I地区DK第5地点	L-12-13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	#	#	
	第I地区DK第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	#	#	
	第I地区DK第7地点	M-N-13	20			瓦窓器	#	#	
	第I地区EK 第2学生食堂新宮	M-N-14-15 O-15	21	900	古墳窓穴住居、土壤、廣、柱穴	弥生土器、瓦窓器、瓦質土器、石器、鐵製品	事前	#	年報 XB
昭和50年	第II地区					弥生土器	試験	#	
昭和51年	第III地区				窓穴住居	弥生土器、土師器、瓦窓器	#	#	(1)
昭和53年	人文学部校舎新宮	M-N-21	22	160			#	調査担当 近藤義一	年報 X

調査 年度	調査名	備内地J-C期	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
昭和 54年	教育部附属養護学校新宮	A-20・21 B-19・20 C-19	23	410	溝、土壤	調文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会	年報 IX
	理学部校舎新宮	N-O-19・20	24	250			#		年報 X
	農学部動物舍新宮	P-19	25	380			#		
	本部管理棟新宮	L-14	26	740	溝、土壤、柱穴、 中世井戸、土壤軸、 住居跡	弥生土器、土師器、 石製品	事前		年報 VIII
昭和 55年	経済学部校舎新宮	K-21	27	66			試掘		
	農学部農業機械実験施設新宮	P-Q-15	28	50	溝、土壤		事前		
	本部環境整備	E-14-16 F-15-16	29				立会		年報 X
	農学部環境整備	N-11 O-10-11 P-9-10	30				#		
昭和 56年	教育部学校舎新宮	H-19	31		弥生堅穴住居 土壤、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		
	教育部音楽棟新宮	H-16	32		溝		#		
	教育部美術科・ 技術科実験室新築新宮	J-K-19-20	33		旧河川、溝、柱穴	調文土器、弥生土器、 須恵器、土師器	#		
	正門接御新宮	I-11	34				立会		
	時計塔埋設	I-14	35				#		
	本部構内施設取扱	K-L-13-14	36				#		
	教養部備内施設取扱	I-15-17 J-17	37				#	工法等変更	
	構内福島道路舗装	J-M-15 M-N-16	38				#		
	農学部中庭整備	N-O-17	39				#		
	職員宿舎改修	O-16	40				#	工法等変更	
昭和 57年	学生部文化公華廬新宮	M-B-9	41				#	工法等変更	
	学生宿馬廬整備	M-N-B-9	42				#		
	附属図書館地盤	L-M-16	43	600	弥生-古墳溝、 土壤、柱穴、核所	弥生土器、土師器、 須恵器、石器	事前		
	大学会館新宮	M-N-14-15	44	130	弥生堅穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育部附属養護学校 スクール新宮	A-B-21	45	880			立会		
	放射性同位元素結合実験室 清水沢新宮	O-18	46	2			#		
	教養部自動車運転 見守口新宮	L-17	47	10			#		
昭和 58年	教養部中庭環境整備	J-K-16	48	150			#		
	大学会館新宮	M-N-12-13	49	2,000	古墳井戸、土壤、 柱穴、中世井戸、 壁立柱跡物	弥生土器、土師器、 須恵器、輪入陶器器 田窪陶器、瓦質土器 縁剥陶器、木削、石器	事前		
	ラグビー場防球ネット新宮	G-J-18-19 H-19-20	50	114	弥生塗。弥生-古墳 堅穴住居、土壤	弥生土器、土師器、 石製品	#	堅穴住居は工法 変更により現地 保存	年報 II
	理学部大学院校舎新宮	M-N-20	51	409			立会		
	正門・南門二輪車置場 および正門花壇新宮	I-J-12-13 H-23	52	183			#		
	学生部アーチュリー場 の台・電柱設置	N-S-9	53	33			#		
	学生部総合整備	M-T-8	54	1.6			#		

調査年度	調査名	構内地点	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	学生部野球場敷水栓取扱	I-21 K-22	55	1			立会		年報III
	教育部環境整備	I-15~16 J-15 K-17~18 L-18	56	81			#		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15~16 F-16	57	12			#		
	大学会館ケーブル布設	N-12	58	160	弥生土器、柱穴	弥生土器	事前		
昭和59年	大学会館排水管布設	J-L-13	59	180	弥生~中世遺物包含層、古墳土壇、古代~中世土壇、塼、柱穴	弥生土器、土師器、灰窓器、青磁、白磁、瓦質土器	#		年報IV
	学生部テニスコート フェンス改修	B-17 C-16~17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試解		
	経済学部新木移植	K-19~21	61	8			立会		
	大学会館環境整備	L-14~15 M-N-15	62	592	弥生~中世遺物包含層、弥生堅穴住居、古代~近世土壤、塼、柱穴	調査土器、弥生土器、土師器、灰窓器、瓦質土器、輸入磁器、陶器、土製品、石斧、原石、鉄器、漆器	試解		
昭和60年	経済学部環境整備(樹木移植)	K-L-20	63	5			立会		
	農学部附属農業科 園芸系漢復整備	R-17~19	64	30	古代末~中世河川跡	灰窓器、土師器、輸入陶器、輪口、石器、鉄斧	#		
	農学部附属農業科 園芸系漢復整備改修	V-15~17	65	325			#		
	教育学部附属環境整備 (樹木移植)	I-J-19	66	430			#		年報V
	中央ボイラー・停車止設置	O-P-16	67	2.5		須恵器	#		
	大学会館環境整備 (樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、灰窓器、石器、瓦石、銅洋	#		
	交通機器設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農芸部解剖実習棟周辺環境整備 (実験動物運動施設設置)	Q-18	70	16			#		
	理学部環境整備(ழ樟設置)	N-21	71	4			#		
	農学部附属家畜病院解説	S-T-19	72	270			#		
昭和61年	国際交流会館新設	M-22~23 N-22	73	70	弥生~古墳河川跡 中世~近世塼	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵土器、陶器、鐵鋸玉、加工版のあら削片	試解		年報VI
	山口銀行営業自動化システム設置 (電線埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡)	弥生土器	立会		
	農学部附属農業科改修計画 (電線ボール設置)	S-20 T-U-19	75	165	中世塼、柱穴	土師器、瓦質土器	#	工法変更	
	農学部附属農業科改修計画 (電線ボール設置)	M-19 H-15 Q-15~17	76	12			#		
	正門棧(水路内)改界 机設置	J-10	77	0.25	包含層		#		
	経済学部環境整備 (樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		

調査年 度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 60年	吉田構内交通機器設置	G~23 K~9 O~22 S~20 V~17	79	3		須恵器	立会		
	市道神郷1号線および、 開田神郷線の送水管設置	B~17~18 C~18~19 D~19~20 E~20~21 F~21~22 G~22~23 H~23~24 I~J~K~24 L~23~24 M~N~23 O~22~23 P~Q~22 R~21~22 S~21 T~20~21 U~19~20 V~18~19 W~X~18	80	2,100	古墳・弥生層、古代 河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、 須恵器(墨書きのある もの含む)、石質土器、 製塗土器、石斧、板石	立会	山口市 教育委員会 山口大学埋蔵文化 財資料館	年報 73
	教養部古墳施設設置 (廻り設置および観察用移動)	K~L~18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用 スロープ取設	L~15~16	81	3			#		
	経済学部散水線取設	L~20	83	4			#		
	吉田構内水体ブーナー 改修等	E~15 F~15~16 H~15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附風農場 水道管理設	S~12	85	3			#		
	吉田構内污水排水管等 改修	M~18 O~15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ 取設	L~14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用 スロープ取設	K~18~20 L~18	88	78			#	工法等変更	
	附属図書館荷物搬運用 スロープ取設	L~16	89	8		弥生土器	#		
	教養部37番教室改修	K~16	90	1			#		
昭和 62年	教育学部附属教育実践 研究指導センター新宮	J~K~18~19	91	240		ブランク、刑器、 植物遺体	事前		
	教養部複合棟新宮	J~K~17	92	95	埋甕土壤、漢、柱穴	土師器、毛恵器、 土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新宮	I~J~16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		
	教養部複合棟新宮	J~K~17~18	94	900	落穴、河川跡、 整穴住居、土塙、床、 屏戸、埋甕土壤、柱立柱壁跡、 谷底遺構、柱穴	調文土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 須恵質土器、陶磁器 石器、石斧、木製品	事前		年報 74
	久田川局部改修	B~16~17 C~16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化 財資料館	
	国際交流会館新宮	M~N~22~23	96	195			#		
	教育学部附属養護学校 自動車運転移設	B~20	97	1			#		
	農学部附風農場E7湖 排水管設置及び E6築堤進入路改修	L~N~12	98	55	中世土壤層	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入白磁 因縫細器、藏石	#		
	農学部植栽	N~17	99	3			#		
	経済学部集水系取設	J~20	100	0.5			#		

調査 年度	調査 名	構内地名	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
昭和 63年	教養部複合棟新宮に伴う 自動車販売移設	H-16	101	1	包含層か 包衣層			立会	年報 Ⅷ
	国際交流会館新宮に伴う排水管理設	N+O-22	102	35	阿川跡(廣がい)、 包衣層	弥生土器、瓶底器	#		
	教養部複合棟新宮に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#		
	サッカーラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	#		
	消防用水設置	K-M-22	105	7.5			#		
平成 元年	水道網新宮	J+L-15	106	4	古墳廣状遺構 柱穴	弥生土器、土師器、 瓶底器、六連式製塙土器	事前		年報 IX
	種野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新宮	H-22 I-21・22 J-K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、瓶 底器、瓦質土器、陶器	#		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-8	110	4			#		
	体育施設系水管改修	G-H-16	111	50		陶器	#	工法等変更	
	大学会館南記念橋	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラー機 地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、瓶底器、土師 質土器、陶器、碎片、 二次加工のある削片	#		
	第2武道場排水渠新宮	G-15	114	2	渠		#		
	室内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			#		
平成 2年	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		年報 X
	大学会館南庭園改整備	N-14・15	117	35	中世墓		#		
	大学会館南庭園改整備	M-15	118	2			#		
	第1学生食安設備改修	I-J-19	119	7			#		
	教育学部附属風農講習会 室内板設置	E-20	120	1			#		
平成 3年	農学部複合化医学科棟新宮	O-P-17	121	76	調文河川	調文土器、石器	試解		年報 XI
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		瓶底器	立会		
	農学部微生物実験室その他 機械替換機設備改修	P-17	123	8			#		
	大学会館南庭園記念橋	L-M-15	124	2			#		
	サークル棟新宮	F-14	125	1			#		
平成 4年	農学部複合化医学科棟新宮	O-P-17	126	960	調文河川	調文土器、石器	事前		年報 XII
	交通規制標識及び バーカー設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田内道路 (南門ロータリー)取設	H-23	128	40			#		
	ボイラーパイプ水管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農学部附属風農 ガラス窓新宮	S-14	130	3.5			#		
	大学会館南庭園記念橋	L-M-15	131	3			#		
	駒町平川郷緊急地方道路整備工事及び山口大学吉田道路震度整備(正門周辺)	E-11・12	132				#		
	駒町平川郷緊急地方道路整備(信号機設置)	E-11	133	7			#		

調査年	調査名	構内地図	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 5年	本部貯給水管設	K~M-13	134	70	廣、柱穴	弥生土器、土師器 滑石製造品	事務		
	人文学部・理学部 講義棟新宮	M-20	135	4			試掘		
	第2棟内運動場氏寧	G-H-16	136	144	廣	弥生土器、須恵器 鐵石	#		
	農学部給水管設	N-P-18	137	9			#		
	系幹管備 (屋外給水管改修)	L-15 M-17~18	138	16			立会		
	農学部連合試医学科棟新宮 電気設備	O-16	139	4			#		
	大学会館南庭・切妻一設置	N-14	140	1			#		
	大学会館南庭記念植樹	L-15	141	1.6			#		
	九田川河川局地改良	C-16 D-15~16	142	40			#		
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2			#		
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10			#		
	教育学部給水管設	H-J-19	145	15			#		
	廻廻整備(大学会館南庭)	L-14 M-13~15 N-14~15	146	140.9			#		
	廻廻整備(道路保存地K)	H-20 I-19~21 J-20~21	147	361			#		
	廻廻整備(正門周辺)	G-13 H-12	148	350			#		
平成 6年	E-20 F-21 G-18~22 H-19~20 I-21	149	600	圓文河川、弥生住居、 廣、土坑、弥生~古 墳河川、近世廣	圓文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、鐵石、 鐵石、鐵石	事務	工法等変更		
	第2棟内運動場新宮	G-I-15~16	150	726	弥生~古代廣、剪籬 穴、土坑、近世廣、 土坑	弥生土器、土師器、須 恵器、鐵石、鐵石、鐵石、 鐵片、須恵器、山賀土 器、土師質土器、陶器、 磁器、瓦、下駄	#		
	グランド屋外照明施設新設 配線埋設	F-21 G-20~21 H-19~20	151	200	圓文河川、弥生住居、 廣、土坑、弥生~古 墳河川、近世廣	圓文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、鐵石、 鐵石、鐵石	#	工法等変更	
	経済学部商品資料館新宮	K-L-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験施設改修新宮	H-12~13	153	2	河川		#		
	体育器具庫及び便所新宮	G-H-17	154	60	河川		#	工法等変更	
	経済学部商品資料館 配線柱設置	L-22 M-22~23	155	5			立会		
	人文学部駐車場整備	K-23 L-22~23	156	6			#		
	教育学部附属幼稚学校 生活排水管改修	F-19	157	2			#		
	テニスコート改修	B-17 C-16~18 D-15~17 E-15~16	158	15			#		
平成 7年	教育学部附属幼稚学校 生活排水管改修	B-20~22 C-20	159	16			#		
	壁上競技場整備 (透水管理設)	C-18 D-18~19	160	200			#		
	ハンドボール場改修 (プレハブ設置)	K-22	161	30			#		

年報
XIII年報
XIV

調査年	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	野球場フェンス改修	H-22 I-21・22	162	3			立会		
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川沿い		#		
	久田川河川底部改良	D-15 E-14・15	164	100			#		
	第2屋内運動場電柱仮設	G-14・15	165	0.5			#		
	若狭部下水道管破裂修理	I-16	166	2			#		
	グランド周外排水明渠施設配線 埋設	E-20 F-20～21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21	167	150			#		年報 XIV
	公共下水道接続 (教育学部附属鳥取高等学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4			#		
	サーキル棟給水管埋設	F-14	169	1			#		
	プール新蓄給水管埋設	E-15 F-15・16	170	10			#		
	公共下水道接続 (汚水管雨水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	#		
	教育学部スロープ設置 (音楽棟)	H-17	172	10			#		
平成7年	農学部R1実験研究施設新宮	Q・R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部R1実験研究施設新宮	Q・R-17	174	520	中世井戸、近世溝	石斧、吸水器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道接続	C-18 E-36 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	养生土器、土師器	試掘		
	公共下水道接続	C・D-18 D・E-17 E・F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	养生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新宮	F-10	177	22			試掘		
	独身宿舎改修	N・O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂準備	N・O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2屋内運動場外周明渠施設 新設	G-15・16	180				立会		
	機器分析センター新宮工事 用電柱仮設	O-19～21 P-22	181				#		
	農学部附属家畜舍改修(母 牛舎) 新設	S-20	182				#		
	吉田寮可燃性瓦窯場新設	N-10	183				#		
	農学部R1実験研究施設電 気・情報ケーブル及びガス・ 給排水管布設	Q・R-17	184				#		
	情報処理センター新設	O-19	185				#		
	基幹環境整備(ATMネット ワークケーブル布設)	E-19・20 F-18・19 G-18	186				#		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-15・16 J-20 K-19 M-10・11 N-12 O-16～18・20 P-18・19 Q-17・18	187				#		
平成8年	基幹環境整備(独身宿舎・国 際交流会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI

調査年度	調査名	備内地区割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成8年	五幹櫛痕整備(外灯新設)	H-I-21~22	189	306	河川	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘		年報 XVI
	農学部附属農場排水管布設	S-10~11	190	93	包含縦、ビット	土師器、須恵器	試掘		
	陸上競技場鉄棒取除	G-18	191	5.5	包含縦		立会		
	農学部附属農場排水渠改修	R-11	192	2.2			#		
	樺野空バ切口ー新設	O-20~21	193	7			#		
	サッカーフィールド水管取替	H-19~20 I-19	194	12	包含縦		#		
	五幹櫛痕整備(共通教育センター・スロープ・ラバース新設)	J-K-17	195	14.3	河川	縄文土器、須恵器	#		
	久田川河川局部改良	E-14	196	18			#		
	農学部附属農場道路舗装	K-12~13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	#		
	本部園林排水管取替	K-14	198	2			#		
平成9年	農学部附属農場家畜病院畜舍周囲取除	S-T-19	199	1			#		年報 XVII
	農学部附属農場排水管布設新設	S-10	200	41.5			試掘		
	農学部バイオ環境制御施設新設	Q-15~16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製塩土器、石器	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
	五幹櫛痕整備(外灯新設)	J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含縦		#		
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			#		
	久田川河川局部改良	E-14	205	48			#		
	本部2号館西側バワーカー新設	L-13	206	0.5			#		
	教育学部附属農業講話室計画新設	D-21	207	1.4	包含縦	土師器	#		
	五幹櫛痕整備(教育学部附属農業講話室排水管取替)	C-D-21	208	17	河川		#		
平成10年	五幹櫛痕整備(他地帯裏表土さとり)	O-16	209	40			#		年報 XVIII
	第2学生食堂増築及び改修	N-O-15	210	730	雁立柱建物、溝、土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石器、鉄製品	事向		
	教育学部附属農業講話室給食室改修	C-21	211	9	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	久田川河川局部改良	E-F-14 F-13	212				立会		
	五幹櫛痕整備(バワーカー新設)	H-15 I-J-20 O-16~18	213				#		
	農学部動物用焼却炉改修	Q-18	214				#		
	五幹櫛痕整備(外灯新設)	L-17~19 M-N-18	215				#		
	理学部スロープ新設	M-18	216				#		
	ステンレス防犯モニタメント新設	M-13	217				#		
	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線設置整備	O-14~16	218		包含縦、柱穴、河川	土師器、須恵器	#		
平成11年	久田川河川局部改良	F-G-13 G-H-12	219				#		年報 XIX
	第2学生食堂北西擴張新設	N-14	220				#		
	サッカーフィールド南側防球ネット新設	G-H-22	221				#		

調査年	調査名	構内地点	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 11年	第1体育馆・共通教育本館 スロープ新設	H-15 K-16	222				*		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-12 K+L-18 L-15 M+N-17	223				*		
平成 12年	総合研究棟新宮	Q-18 R-17-19	224	250	河川	土師器、須恵器	試掘		
	総合研究棟新宮	Q+R-18+19	225	830	河川、土坑	調文土器、土師器、須 恵器、製塙土器、瓦質 土器、石器	事前		
平成 13年	廻舎及び周辺施設改修	M-8	226				立会		
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15-16 Q-14-15-18-19 R-13-14 R+S-19 S-14	227		包含層		*		
	九田川河川局部改良	H-11-12 I-10-11 J-9-10 K+L-9	228				*		
	山口合同ガスガーナー室新設 及びガス配管布設	O+P-22	229				*		
	基幹環境整備 (リカ一新設)	N-22 M-10 V-17	230				*		
	あづ生や新設	L-18	231				*		
	共通教育センター空調設備 新設	J-16	232				*		
	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 M-10	233				*		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新設)	K-21	234	40	河川	調文土器、土師器、 須恵器	試掘		
平成 14年	九田川河川局部改良 (平成12年度工事追加分)	K-9 L-8-9	235	42	河川		立会		
	総合研究棟新宮(屋外配管布設)	P+Q-18	236	60			*		
	理学部改修1期 (屋外配管布設)	M-18~20 N-19~21 O-19	237	76			*		
	九田川河川局部改良	L-8	238	96			*		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-14-15 J-L-15 M-16 N-16 Q-17-19 R-17-19 S+T-17-V-17	239	15.4	河川		*		
	理学部校舎改修1期 (ボンベ配管布設)	M-19	240	11			*		
	理学部校舎改修2期(自転車 置場・渡り廊下屋根新設)	M+N-20	241	196			*		
	第1学生食堂トイレ改修	I-J-19	242	6			*		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎配管布設)	L-21	243	10			*		
平成 15年	農学部校舎改修(解剖実習 棟プレハブ校舎新設)	R+S-19	244	520	獨立柱建物、柱穴、 土坑、包含層、河川	土師器、須恵器(墨書 土器)、製塙土器、疊 陶器、瓦、輪口、鈍尾、 鋼鉄石	事前		
	農学部校舎改修	O-14	245				立会		
	農学部校舎改修	N-Q-17-18	246		河川	調文土器	*		
	理学部改修3期工事(薬品庫 両面板・自転車置場新設)	N-19- M-19-20	247				*		

年報
第1回

調査年数	調査名	県内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 14年	東アジア研究科プレハブ校舎新宮	N-21	248				#		
	農学部校舎改修(解剖実習施設・プレハブ校舎新宮)	R-S-19	249		河川、包含層		#		
	教育部トイレ改修	I-18	250				#		

小串構内

調査年数	調査名	県内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 59年	医学部体育馆新宮		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報 III
	医学部図書館新築		2	4			立会		
	医学部体育馆新宮		3	1			#		
昭和 60年	医学部浄化槽新宮		4	44	近世廃	土師器、瓦質土器、磁器	事苗		年報 IV
	医学部体育馆新宮		5	6.5		土師器、瓦質土器、磁器	#		
	医学部差幹敷地 (跨高受電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
	医学部臨床講義棟 病理解剖棟新宮		7	38			#		
昭和 60年	医学部附属病院 外来診療棟新宮		8	390		土師質土器、瓦質土器、與磁器	#		年報 V
	医学部基礎研究棟新宮		9	10		近世陶器	#		
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶器	立会		
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			#		
	医学部環境整備 (樹木移植)		12	40			#		
昭和 61年	医学部附属病院 外来診療棟新宮		13	5			#		年報 VI
	医学部附属病院 近隣施設整備(雨水排水設)		14	18			#		
昭和 62年	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			#		年報 VII
	医学部附属病院病棟新宮		16	104		削器、ナイフ形石器 細石刀核	試掘		
昭和 63年	医学部附属病院病棟新宮		17	309		二次加工のある削片、 使用痕のある削片、刮 片、鐵石、鐵、原石、 土師器、土師質土器、 瓦質土器、陶器	立会		年報 VIII
	医学部附属病院運動場整備		18	220			#		
平成 元年	医学部附属病院MRI棟新宮		19	45		削器、細石刀、 二次加工のある削片、刮 片、石核	試掘		年報 IX
平成 2年	医学部附属病院動物・ RT実験棟新宮		20	40		削片	#		年報 X
平成 3年	医学部臨床実験施設新宮 電気工事		21	0.5			立会		年報 XI
平成 4年	他却種地盤調査		22				#		年報 XII
平成 5年	医学部臨床実験施設新宮 その他		23	9			#		年報 XIII
	医学部附属病院系幹設備 (施却棟新宮)		24	6			#		

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	医学部附属病院MRI-CT装備改新工事		25	300			#		年報XIV
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新設		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報XV
平成9年	医学部懇意碑・納骨堂新設		28	15.2			試掘		
	瓦幹窓飛龍彫(香港帰宿合併化槽盤去)		29	4			立会		年報XVI
	医学部別棟移設		30	10			#		
平成10年	宇都宮市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸内線)		31	134	包含層。近世～近代 用水路	削片、弥生土器、 土師器、陶器、磁器	事前 宇都宮市教育委員会と共同調査		
	宇都宮市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸内線・医学部敷地西側特殊性)		32	379	包含層。近世～近代 用水路	削片、鐵矢土器、弥生 土器、土師器、陶器、 磁器	# 宇都宮市教育委員会と共同調査		
平成11年	宇都宮市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸内線)		33	702	近世～近代用水路、 土坑	陶器、磁器、鐵製品	# 宇都宮市教育委員会と共同調査		
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新設		34	229	包含層	縄文土器、弥生土器、土 師器、陶器、磁器、鐵釘	試掘		年報XVII
平成14年	医学部附属病院高エネルギー核新設		35	13.25			#		
	総合研究棟新設		36	382	包含層	縄文土器、土師器、石 器、瓦質土器、陶器、 磁器	#		

常盤構内

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和39年	工学部校舎新設		1	70		痕跡	試掘		年報III
	工学部図書館増築		2	70			#		
昭和59年	工学部尾山宿舎排水管設置			20			立会		年報IV
昭和60年	工学部尾山宿舎 暖壁取設等			65			#		年報V
	工学部受水槽改修		3	1.5			#		
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			#		
	工学部身体障害者用 スロープ設置		4	29			#		年報VI
	後期処理センター (常温センター) 空調設備取扱		5	30			#		
昭和63年	工学部施設計上解新設		6	225			#		年報VII
平成元年	工学部夜間照明装置 及び防寒ネット設置		7	2			#		年報IX
	工学部記念植樹		8	2.5			#		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			#		年報X
平成3年	工学部展示物設置		10	7			#		年報XI
平成4年	工学部プレハブ研究・ 実験棟新設		11	6			試掘		年報XII

調査年度	調査名	境内地区割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成4年	工学部・工芸短期大学部の 改組再編・博士課程設置に 伴う建物等の新宮		12	40			*		年報 XII
	工学部および工芸短期大学 職員宿舎改築		13	9			立会		
	大學祭場用物設置		14	7			*		
平成5年	工学部プレハブ研究・ 実験棟新宮		15	12			試解		年報 XIII
	工学部地域共同研究開発 センター新宮		16	16			*		
平成7年	工学部国際交流会館新宮		17	8		石器	*		
平成8年	工学部国際交流会館新宮		18	352	段状造構	ナイフ形石器、剣片	事情		年報 XIV
平成12年	工学部福利厚生棟新宮		19	38.5			試解		
平成13年	工学部インキュベーションセ ンター新宮		20	60		土師質土器、瓦	*		年報 XXI
平成14年	総合研究棟新宮		21	13.5			*		

白石構内

調査年度	調査名	境内地区割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・ 幼稚園運動施設備		1	60	古墳型穴住居、 溝状造構	土師器、東夷器、瓦質 土器、瓦、石製品、 木製品	試解		年報 四
昭和60年	教育学部附属山口小学校 敷水栓改修		2	1			立会		
	教育学部附属山口中学校 連接コート整備		3	2			*		
	教育学部附属幼稚園 覆泥整備(樹木植樹)		4	1			*		
昭和61年	教育学部山口附属学校二 汚水排水管布設	幼稚園・小学校部分	5	57	中腹土塁か・ 河川跡と柱列	縄文土器、弥生土器、 土師器、東夷器、瓦質 土器、土師質土器 陶磁器、不明鉄製品、 石器、剣片、植物遺体	試解		年報 VI
	教育学部附属山口小学校 電柱移設		6				立会		
	教育学部附属幼稚園 避難室整備		7	40			*		
昭和62年	教育学部附属幼稚園 避難室整備								年報 VII
昭和63年	教育学部附属山口中学校屋 内火栓設備改修		8	35	包合層	土師器、磁器、剣片	*		年報 VIII
平成元年	教育学部附属幼稚園・ 山口小学校 汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳型穴 住居、土塁、溝、 柱穴、河川跡	縄文土器、弥生土器 土師器、東夷器、瓦質 土器、黑色土器、漆器、一 次加工のある剣片、 使用痕のある剣片、 剣片、石核、桃石	事情		年報 IX
	教育学部附属幼稚園 バレーコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・ 山口小学校汚水排水管設置		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、 打製石斧、削器、剣片 石核	*		

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成2年	教育学部附属山口中学校汚水排水管布設		12	70	溝状遺構	調文土器、陶生土器、土師器、瓦質土器、不明焼製品、石器、鐵石、扁平打製石斧、砾石、削片	事前	年報X	
			13	130		陶生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、瓦質陶器、瓦質陶磁器、扁平打製石斧、砾石	立会		
平成6年	教育学部附属山口小学校プール新設給水管渠設		14	3			#	年報XIV	
			15	7			#		
平成7年	教育学部附属山口中学校自動車渡場新設		16				#		
平成10年	教育学部附属山口小学校給食室改修		17				試験		
平成12年	教育学部附属山口中学校防球ネット新設		18				立会		
平成14年	教育学部附属山口中学校給水設備改修		19				#		
	教育学部附属幼稚園運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		

光構内

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校自動車渡場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試験		年報III
昭和59年	教育学部附属光小・中学校施用印新宮		2				立会		年報IV
昭和60年	教育学部附属光中学校外灯改修		3	1		土師器	#		年報V
昭和61年	教育学部附属光小学校創立記念事業(プロン不燃建立)		4	2.5		土師器、須恵器	#		年報VI
昭和62年	教育学部附属光中学校グラウンド防球ネット設置		5	2		陶生土器、土師器、瓦質土器、土師質土器、瓦	#	調査洗浄採集	年報VII
昭和63年	教育学部附属光小学校避暑器具移設		6	10		土師器、土師質土器、陶磁器	#	年報VIII	
	教育学部附属光小学校屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、土塊	#		
平成2年	教育学部附属光小学校運動場改修		8	15		調文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、施釉陶器、磁器、土塊、削片、紅土	試験	調査洗浄採集遺物古仁	年報X
	教育学部附属光小学校運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校武道館新宮		10	36	溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試験		年報XI
	教育学部附属光小学校屋外施設設置		11	18		土師器、石塊	立会		

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成3年	教育学部附属光中学校 バーベキュー新設		12	0.5		土師器	#		年報 XI
平成4年	教育学部附属光中学校 武道館新築		13	500	土壤、柱穴	調文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事務		年報 XII
	教育学部附属光中学校 武道館地盤調査		14				立会		
平成5年	教育学部附属光中学校 武道館新築その他		15	6			#		年報 XIII
平成6年	教育学部附属光中学校 バーベキュー新設排水管埋設		16	19			#		年報 XIV
平成8年	教育学部附属光小・中学校 調査(外周フェンス・防寒ネット 取扱)		17	7		陶器	#		年報 XVI
平成10年	教育学部附属光小・中学校給食 室改修		18	6			#		
平成11年	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世-近代土壤	土師器、須恵器、柿式系 土器、電気土器、 陶器、磁器	試掘 立会		
平成12年	教育学部附属光小・中学校 調査石積改修		20		石垣	陶器	立会		
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		21				#		

その他構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和50年	学生部ボート艇庫 合宿研修所整備	宇都市大字小野字土井		0.5			立会		年報 IV
	学生部コット艇庫 合宿研修所整備	吉敷町秋穂町東字中道					#		
昭和60年	熊野荘給湯機器取替	山口市熊野町3-21		7			#		年報 V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29		35	杭		#		年報 VI
	経済学部職員宿舎 公舍下水道切替	山口市湯田温泉2丁目3-32		1		土師質土器	# 6号宿舎		
		山口市水の上町6-1		7		JC	# 2号宿舎		
昭和63年	経済学部職員宿舎 公舍下水道切替	山口市白石2丁目8-7		1		須恵器、土師器、土師 質土器、瓦質土器、 陶器	# 7号宿舎採集		年報 7
平成元年	本部職員宿舎 公舍下水道切替	山口市水の上町6-1		1			# 1号宿舎		年報 IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公舍下水道切替	山口市石鏡音町1-25		1.2		陶器	# 7号宿舎		年報 X
	経済学部職員宿舎 公舍下水道切替	山口市香山町3-1		0.5			# 3号宿舎		
平成3年	湯田宿舎入棟給配水 その他改修	山口市湯田温泉6丁目		30			#		年報 XI
	経済学部8号職員宿舎 柱柱設置	山口市湯田温泉2丁目3-32		0.5			#		
	人文・理学部職員宿舎 公舍下水道切替	山口市天王寺2-2		1			#		

調査 年度	調 査 名	構内地図割 地点	面積 (m ²)	道 橋	道 物	調査 区分	備 考	文獻
平成 4年	上堅小路共同下水管布設	山口市上堅小路宇久保 7-4	7			立会		年報 XII
平成 6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29	44			#		年報 XIV

参考文献① 山口大学吉田道終調査『吉田道終発掘調査報告』(山口大学、1976年)

参考文献② 年報41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉

田道終調査の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

参考文献③ 年報15年度以降についても、『山口大学埋蔵文化財資料館年報』を参照されたい。

Summary

Ch. I : A summary of archaeological excavations on the campus of Yamaguchi University in the 2001 fiscal year

Test excavations were carried out once each on the Yoshida, the Kogushi, and the Tokiwa campuses.

Ch. II : Test excavations in the 2001 fiscal year

During the test excavation before constructing a prefabricated schoolhouse at the Faculty of Economics, natural rivers and a small number of pottery sherds from the Jomon to the Kofun periods were uncovered.

The test excavation for the construction of a multi-storey car park at the University Hospital revealed layers containing artefacts. The layer 1.6m below the ground surface contained a small number of pottery sherds from the Jomon to the Middle Ages. It is thought that these pottery sherds were transported by the stream from the north side of the University Hospital.

In the test excavation for the construction of the Business Incubation Center, no archaeological remains were found.

Ch. III : On-site inspections on the Yoshida campus in the 2001 fiscal year

During the pipe laying work of the Research and Education Building on the Yoshida campus, possible natural rivers and layers containing cultural remains were found.

We investigated 18 spots for constructing outdoor lamps on the Yoshida campus. At the spots A and G, a buried river was discovered. At the spot I, the layer could be a buried river or a cultural layer. A possible cultural layer was also found at the Spot J. The spots K, L, and M contained buried rivers. From these spots and the other spots no archaeological remains were found.

Appendix

I This is a summary report of newly discovered drawings from the excavation carried out in 1966 at Area 1 A of the Yoshida Site. As a result of having examined the drawings, it is possible that the irregular planned pit which was reported in 1993 was

the shoulder part of a river associated with accumulated pottery. In addition, the other artefacts from the former report in 1993 could have been found from the buried river. These artefacts can be assumed to have been discarded from the village that existed in front of the University Hall.



Fig.30 山口大学吉田構内地図および主な調査区位置図(昭和 41 年度～平成 14 年度)



Fig.31 山口大学小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）



Fig.32 山口大学常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

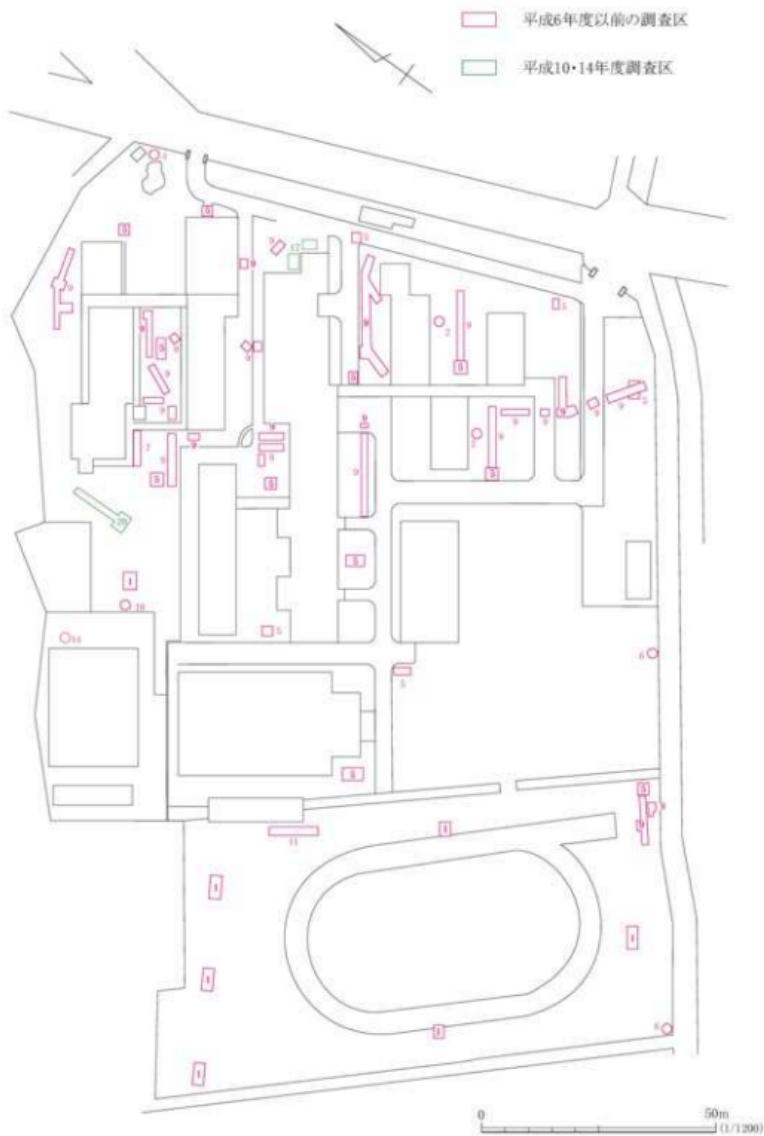


Fig.33 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

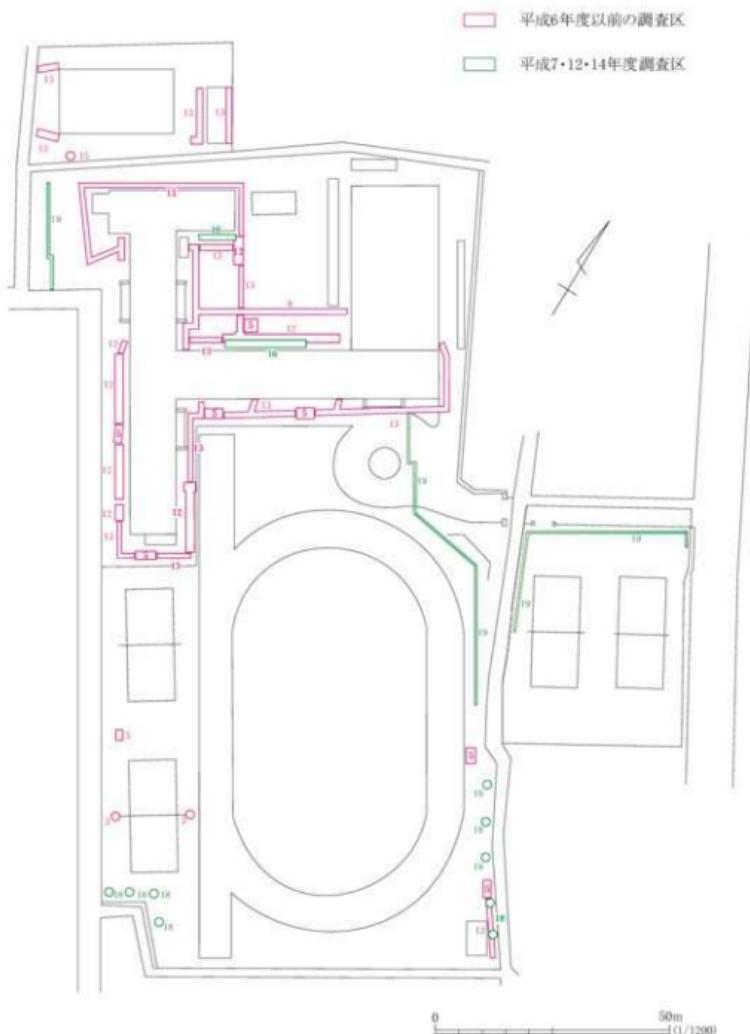


Fig.34 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）



図 版



北田琴区側瞰（西方面）

吉田構内経済学部校舎改修
(フレハブ校舎新設) に伴う試掘調査



(1) 調査前全景（北西から）



(2) 調査区全景（北から）

吉田構内経済学部校舎改修
に伴う試掘調査

二



(2) 2区観察トレーンチ土層断面（南東から）



(4) 5区床面網文土器出土状況（東から）



(1) 調査区西壁土層断面（南東から）



(3) 3区西壁土層断面（東から）



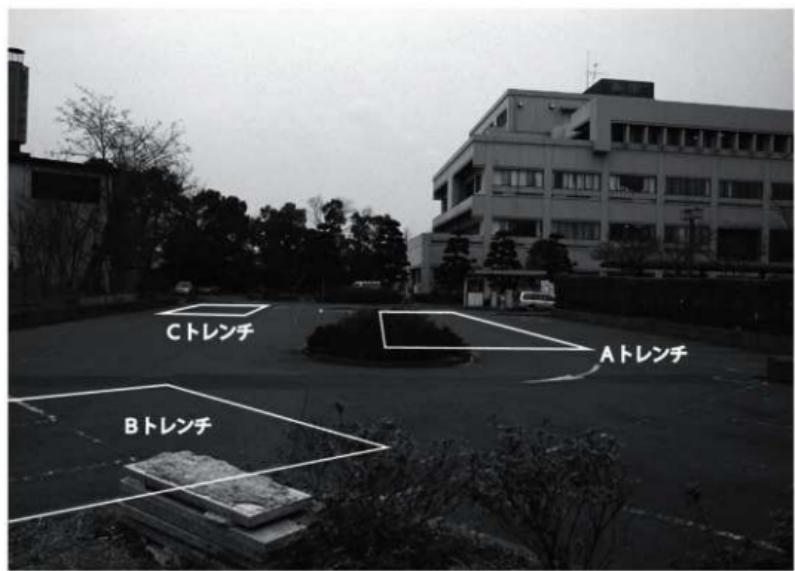


小田急線内側線（南から）

小串構内医学部附属病院立体駐車場新設に伴う試掘調査



（1）調査区近景（北東から）



（2）調査区近景（北から）

小串構内医学部附属病院立体駐車場新設に伴う試掘調査
一



(1) Aトレイン作業風景（北から）



(2) Aトレイン作業風景（北から）



(3) Aトレイン東壁南端（西から）



(4) Aトレイン全景（南西から）

小串構内医学部附属病院立体駐車場新設に伴う試掘調査

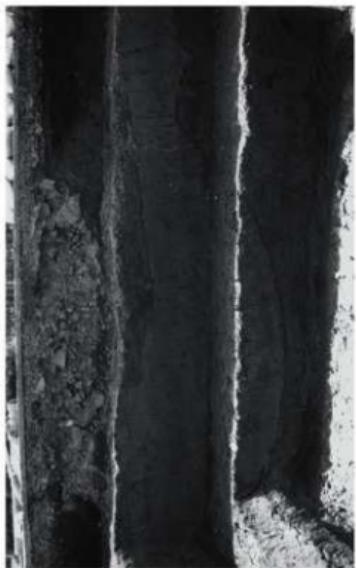
三



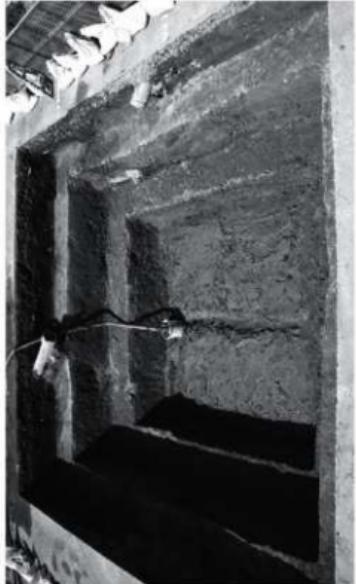
(1) 日レンチ北壁 (南東から)



(2) 日レンチ東壁 (北西から)



(3) 日レンチ南壁 (北西から)



(4) 日レンチ全景 (北東から)

小串構内医学部附属病院立体駐車場新設に伴う試掘調査
四

(2)Cトレーナー東壁(南西から)



(1)Cトレーナー北壁(南から)



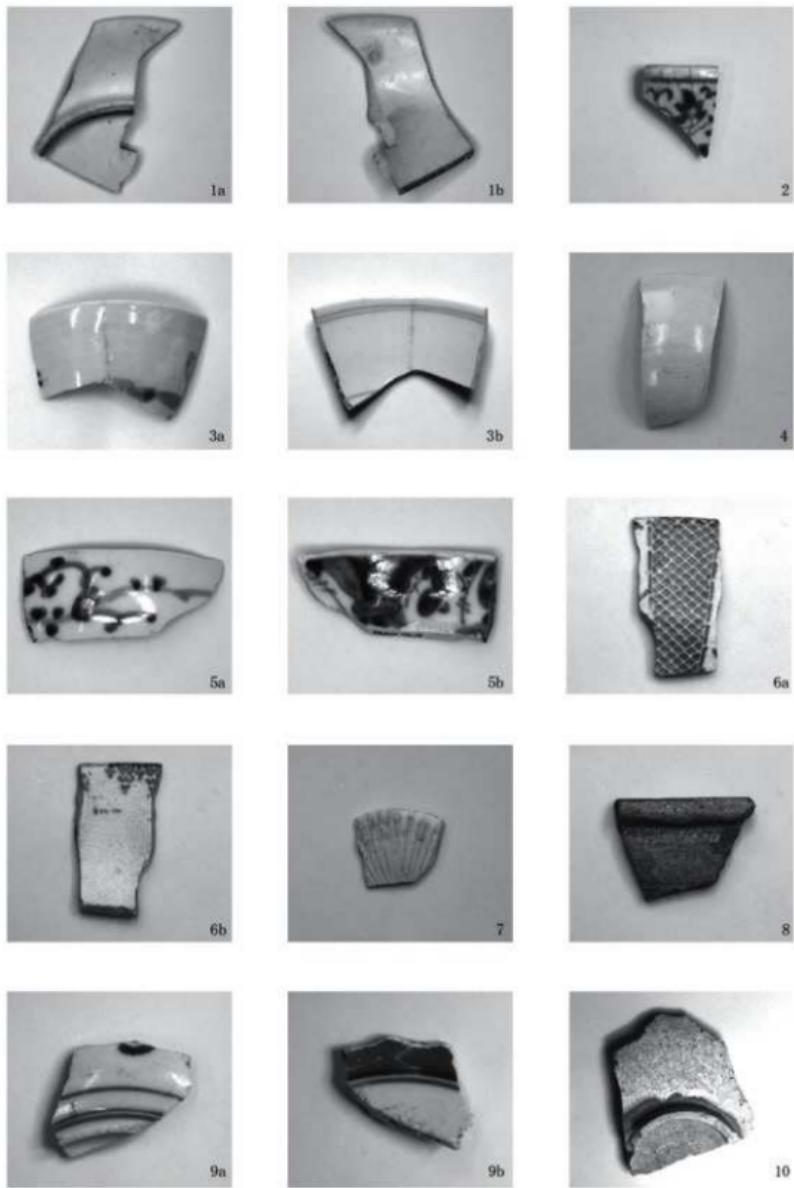
(3)Cトレーナー全景(南西から)



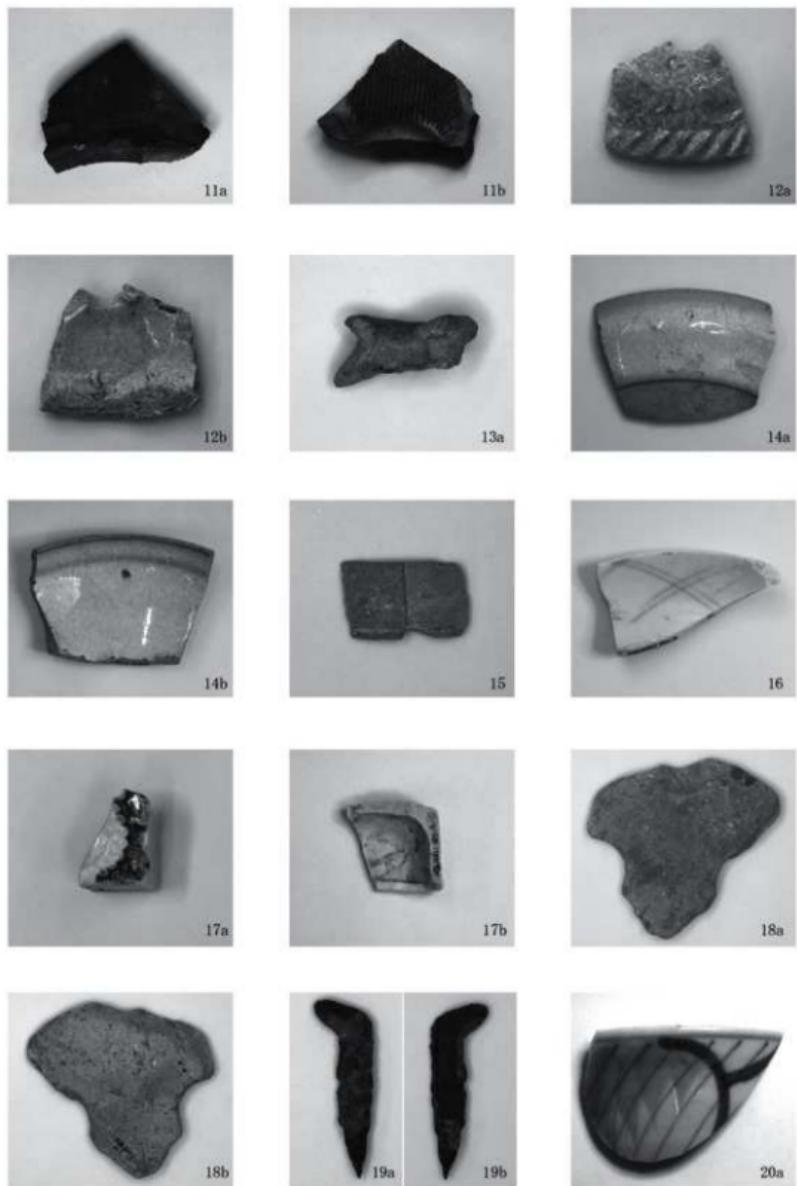
(4)Cトレーナー全景(北から)



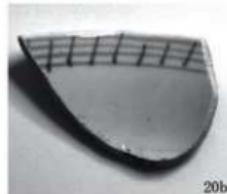
小串構内医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査
五



Aトレンチ出土遺物①



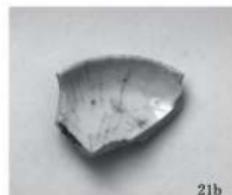
Aトレンチ出土遺物②



20b



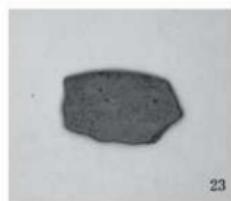
21a



21b



22



23



24



25a



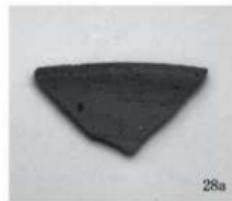
25b



26

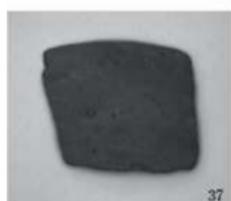
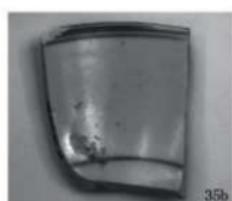
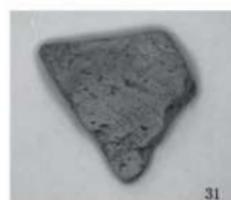
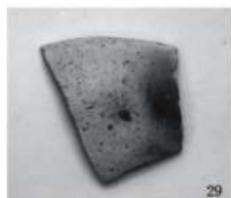


27



28a

Aトレンチ出土遺物③



A~Cトレンチ出土遺物



新嘉坡区创略（图4-1）



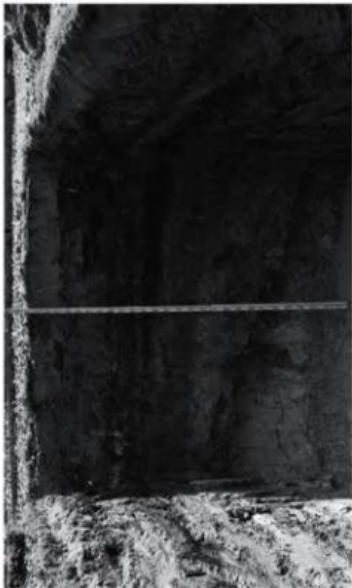
(1) Aトレーンチ北東部（南東から）



(2) Aトレーンチ水田耕土上面換出状況（東から）



(3) Bトレーンチ全景（南西から）



(4) Bトレーンチ東壁土層断面（西から）

付編 吉田遺跡第I地区A区の未報告図面



(1) 第I地区A区全景（南西から）



(2) 第I地区A区調査風景（北西から）



(3) 第I地区A区「不整形のヒット」検出状況（北から）



(4) 第I地区A区「不整形のヒット」土器出土状況（西から）

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくこうないいせきちょうさけんきゅうねんぽう
書名	山口大学構内遺跡調査研究年報
副書名	
巻次	III
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	田畠直彦 川島尚宗
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市大字吉田1677-1 TEL 083-933-5035
発行年月日	西暦2016年（平成28年）3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡 K-21区	山口県山口市 大字吉田1677-1	35203		34度 08分 44秒	131度 28分 05秒	20011204・ 20011205 20011210～ 20011228	40m ²	経済学部プレハブ 校舎新設
山口大学医学部 構内遺跡	山口県宇部市 南小串1丁目1-1	35202		33度 57分 39秒	131度 15分 02秒	20020226～ 20020325 20020401～ 20020415	229m ²	医学部附属病院 立体駐車場新設
山口大学工学部 構内遺跡	山口県宇部市 常盤台2丁目16-1	35202		33度 57分 20秒	131度 16分 23秒	20011112・ 20011120～ 20011122	60m ²	インキュベーション センター新設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡 K-21区	集落跡	縄文～古墳	河川 1	縄文土器、土師器、 須恵器	
山口大学医学部 構内遺跡	散布地	縄文～近世		縄文土器、土師器、 須恵器、陶器、磁器	
山口大学工学部 構内遺跡	散布地	近世～近代		土師質土器、瓦	

山口大学構内遺跡調査研究年報 XXI

平成28年 3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 有限会社 三共印刷

〒759-0291 宇部市大字妻崎開作1953-8

ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES AND STUDIES
AT YAMAGUCHI UNIVERSITY Vol.XXI

CONTENTS

Chapter

I	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2001 fiscal year	1
II	Test excavations in relation to the construction performed on the Yamaguchi University campus in the 2001 fiscal year	5
III	On-site inspection performed on the Yamaguchi University campus in the 2001 fiscal year	21

Appendix

Newly discovered drawings of the excavation in Area 1A at Yoshida Site	27
The gist of researches and studies at Yamaguchi University	33
List of excavations at Yamaguchi University	36
Summary	51

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2016